目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第１章　事業概要
1.実施テーマ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2.実施体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3.課題認識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
4.現状の取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
5.調査研究の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
6.調査研究の具体的な内容・取組方法　・・・・・・・・・・・・・・・・4
7.調査研究における教育委員会との連携　・・・・・・・・・・・・・・・4

第２章　玉川大学　全学一体化による教職課程運営の取り組み
―　「参観実習」の実態と成果の検証　―
1.参観実習の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.参観実習受講者の意識調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第３章　教育委員会、校長会と連携した
「教育実習指導に関する協議会」報告
1.相模原市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
2.川崎市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
3.横浜市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
4.町田市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

第４章　公開研究会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

資　　料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

はじめに

玉川大学教師教育リサーチセンター長
玉川大学大学院教育学研究科・教育学部
教授　森山賢一

教員の資質能力の向上の在り方については、教師教育とりわけ、教員養成を担う大学においては、長年にわたる最重要課題とされている。特に小中一貫教育制度における教員免許制度の在り方にかかる教員養成の方向性とそこでの教員としての資質能力の保証については今後の課題の一つとして位置づけられる。

近年では、中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」においても、大学全体として教職課程の質保証を実現する体制の整備充実が求められている。地域における教育委員会との連携を実現する教員育成協議会、教員育成指標の具体化を図ることと連動した、教職課程を質的に向上させるシステムの整備が求められているなか、教職課程の継続的質保証を担保する、大学運営体制の構築が重要課題となっている。

本学は、文部科学省が平成 28 年度に募集した「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の実施団体として「教職課程の質を継続的に保証できる仕組みの構築」の研究課題のもとで応募し、採択された。本報告書は、本委託事業の報告書である。

第 1 章においては、本事業の概要として、実施体制、課題認識、現状の取組、調査研究の目的、調査研究の具体的な内容、取り組み方法等について述べた。

次に第 2 章では、本学が教職課程受講者 1 年生全員を対象として実施している参観実習について、1 年生、4 年生にアンケート調査を行い、その実態と成果の検証を詳述した。

第 3 章においては、平成 28 年度の教育委員会、校長会と連携した教育実習協議会について報告を行った。

さらに第 4 章では、他大学における質向上への取り組み、教育委員会の求める人材像についての公開研究会の実施内容について報告を行った。

最後になったが、本委託事業に協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げたい。

第１章　事業の概要

１.実施テーマ

教職課程の質を継続的に保証できる仕組みの構築

【調査研究主題】

教職課程の継続的質保証を担保する大学運営体制の構築

2.実施体制

職　名	氏　名	役　割　分　担
教師教育リサーチセンター長・ 教育学研究科・教育学部 教授	森山　賢一	事業責任者
東京薬科大学生命科学部教授 教師教育リサーチセンター客員教授	田子　健	事業推進総括担当
教育学部 准教授	工藤　亘	事業推進担当
工学部 教授	豊田　昌史	工学部数学教員養成プログラムの運営・カリキュラム研究
芸術学部 准教授	高橋　愛	芸術学部芸術教育学科の運営・カリキュラム研究
文学部 准教授	工藤　洋路	文学部英語教育学科の運営・カリキュラム研究

3.課題認識

中央教育審議会答申において、大学全体として教職課程の質保証を実現する体制の整備充実が求められている。地域における教育委員会との連携を実現する教員育成協議会、教員育成指標の具体化を図ることと連動した、教職課程を質的に向上させるシステムの整備が鍵となる。本学でのこれまでの取り組みは教職課程における質保証の先進事例のひとつとなってきたと考えるが､新たな課題を受けて､その高度化を図り、本学の教育を一層向上させるとともに他大学のモデルとなるシステムを創出したい。

4.現状の取組

教師教育リサーチセンターを開設し、6 学部における教員養成教育の系統的な運営を図り、教職課程教育の充実とともに、地域の教育委員会・学校と連携した学校ボランティア、学校インターンシップの取り組みを積極的に行ってきた。また平成 25 年度から半年間に履修できる単位数上限を 16 単位とし、教職課程科目を卒業単位化することを実現し、大学教育の一環としての教員養成教育の充実に努めてきた。

(1) 教育委員会・大学・独立行政法人教員研修センター等との連携

連携先の種類	具体的な連携先
教育委員会	東京都、神奈川県、町田市、横浜市、相模原市等
大学	東京薬科大学
独立行政法人教員研修センター	

(2) 連携内容

教育委員会とは本大学の教員養成に係る全般的事項の協議及び先方委員会における教員研修等の企画助言、講師等を行ってきた。大学及び独立行政法人教員研修センターとは、大学における教員養成、質保証の具体化に関する情報交換及び共同の研究を行い、本大学における教職課程運営、特に質保証の在り方について知見を得ている。

5.調査研究の目的

本大学では、平成 24 年度に教師教育リサーチセンターを設置し、教職課程運営の在り方を抜本的に見直した。教師教育リサーチセンターが、6 学部における教員養成教育の系統的な運営を図り、地域の教育委員会・学校と連携した取り組みを積極的に行ってきた。また平成 25 年度から半年間に履修できる単位数上限を 16 単位とし、教職課程科目を卒業単位化するなど、大学教育全体に位置づけた教員養成教育の充実に努めてきた。本研究では、この間の取り組みを全体として評価し、その高度化を図る方策を見出し、本学の教育を一層向上させるとともに他大学のモデルとなるシステムを創出したい。

中央教育審議会答申において、大学全体として教職課程の質保証を実現する体制の整備充実が求められている。地域における教育委員会との連携を実現する教員育成協議会、教員育成指標の具体化を図ることと連動した、教職課程を質的に向上させるシステムの整備が求められるなか、教職課程の継続的質保証を担保する大学運営体制の構築を行ってきた本大学の歩みをこの際包括的に評価し、この課題実現の道筋を提案することを目的とする。

６.調査研究の具体的な内容・取組方法

（1）本大学における教職課程運営に関する包括的評価に関する調査

本学学生、教職員に対する評価調査と地域における教育委員会の評価調査からなる総合的な質問紙調査を行い、本大学が進めてきた教師教育リサーチセンターによる全学一体の教職課程運営に関する現状と課題を明らかにし、包括的評価を行う。両調査とも、学校での授業等の参観実習（1 年次）、教育実習事前指導（3 年次）、学校インターンシップ・ボランティアの成果と同時に指導改善の在り方について質問し、教職課程質保証・評価を担保し得る運営システムを構築してきたかを振り返り、今後の課題を明らかにする。

(2) 本大学における教職課程運営体制高度化に関する調査

中教審答申を本大学において具体化することを目的として、（1）の調査をもとに、本大学における教職課程運営体制高度化に関する調査を、本学学生、教職員に対する質問紙による意識調査と都、県・区、市教育委員会に対するヒアリング調査によって行う。都、県教育委員会との連携による教員育成協議会、教員育成指標の具体化、区、市教育委員会との連携による教職課程教育を質的に向上させるシステムの整備に関わるヒアリングが主たる内容となる。対象とする教育委員会は、東京都、神奈川県、横浜市、町田市、相模原市、狛江市等を予定している。

（3）他大学に適応可能な全学体制による教職課程質保証組織モデルの開発

教育委員会等研究連携機関との研究フォーラムの実施によって、他大学に適応可能な全学体制による教職課程において質保証が可能となる組織モデルの開発のための成果のとりまとめを行う。大学における養成教育が今後の教員育成システムに有機的に位置づくことによって、教職課程の継続的質保証を担保する大学運営体制の構築が可能となり、教職課程の質保証が結果することを目指すものである。

（4）開発したモデルの普及

本研究によって得られた成果を本大学における教職課程教育の改善、地域連携の実現に活かすだけではなく、成果報告書を通じた開発したモデルの普及に努め、答申の具体化に寄与したい。

7.調査研究における教育委員会との連携

都県教育委員会とは教員育成協議会、教員育成指標の具体化を協議し、大学として必要な課題を明らかにする。市区教育委員会とは教育実習、学校インターンシップ等の取り組みの一層の充実による質保証の具体化を図る。大学及び独立行政法人教員研修センターとは、大学における質保証の具体化に関する情報交換及び共同の研究を行い、本大学における質保証の在り方について包括的な評価を得る

第２章　玉川大学　全学一体化による教職課程運営の取り組み
―　「参観実習」の実態と成果の検証　―

参観実習とは、玉川大学教職課程受講者１年生を対象としている教育現場参観である。教職課程受講者１年生とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校いずれかもしくはその複数の教員免許状取得を希望している学部１年生を指す。また、教育現場とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校である。参観実習は、教育現場での１日間の実習と、実習開始前に行う事前指導と実習後の事後指導で構成されている。平成２５年度から参観実習を開始し、玉川大学における教職課程の特徴的な取組みの一つとなっている(資料[1])。

1. 参観実習の概要

参観実習は、１日かけて行われる。時間は、８時から１５時３０分までである。ただし、部活動等の参観も行う場合、終了時刻は１５時３０分よりも遅くなる。したがって、時間は教育現場の状況に応じて変更可能である。また、参観実習当日の前に事前指導が３回行われる。１回目では、参観実習の概要の説明や書類の配布、班ごとの顔合わせが行われる。また、実習生プロフィールの用紙も配られる。実習生プロフィールの添削が、引率教員によるひとつの事前指導となる。２回目で、実習生プロフィールの清書の回収を行う。３回目では、教員の一日についての説明がなされる。例えば、平成２７年度参観実習事前指導の日程は、次の通りである。

第１回　平成２７年９月１７日（木）１７：１５～
　　引率教員の出席は任意
第２回　平成２７年１０月８日（木）１９：００～
　　読売新聞社主催の教職課程特別講座の後に実施
　　プロフィール文書の清書回収と班長への連絡
　　引率教員の出席は任意
第３回　平成２７年１０月２２日（木）１９：００～
　　読売新聞社主催の教職課程特別講座の後に実施
　　教員の一日に関するＤＶＤを視聴
　　引率教員の出席は任意

参観実習終了後、班長は実習校の校長宛のお礼状を書く。また、各学生は参観実習報告書を作成する。このお礼状と参観実習報告書の添削が、指導教員によるひとつの事後指導となる。清書した参観実習報告書は、教師教育リサーチセンターに提出する。

参観実習を開始したのは平成２５年度からである。参加人数は、平成２５年度が４２２人、平成２６年度が５８５人、平成２７年度が４３１人、平成２８年度が４１６人であった。

参観実習の導入の経緯について述べる。平成２４年度に教師教育リサーチセンターを設置した。また平成２５年度から、半年間に履修できる単位数上限を１６単位とした。さらに、教職課程科目を卒業単位に含めた。参観実習も、これら平成２５年度からの新しい取り組みの一つとして導入された。実際、「学士課程における２０２０ＶＩＳＩＯＮ」の「５．教職課程における教員養成の充実」（資料[2]）に次のようにある。

【到達目標】

- 全学科に「教職に関する科目」を１２４単位に含めた教職コースを開設する。
- 体系的・系統的な教員採用試験対策プログラムを開発・実施し、名簿搭載率を現行の３３％から５０％にアップさせる。
- 教職研究室（通学課程・通信教育課程）の指導内容・体制を再構築する。
- １セメスターから教職課程受講登録及び教職科目の履修を開始し、教育実習を３年次に実施する。また、教職課程受講継続判定をＧＰＡ，各種検定のみならず、教職履修カルテをもとに、総合的に行う。
- 学校インターンシップ、観察参加実習、学校教育学演習を全学的に開設し、実施する。
- 地域―大学連携による教員養成体制の更なる充実を図る。

この到達目標に対して、１セメスターからの教職課程受講登録および教職科目の履修開始、参観実習の全学的開設ならびに実施が平成２５年度からなされた(資料[3])。

次の図は、平成２５年度から平成２８年度までの実施日、参観実習の受け入れ校、対象学部学科、参加人数および引率教員の表である。

平成25年度

No.	実施日	参観家畜受入れ校	対象学部学科	参加人数	引率教員
1	10月22日	相模市立相模第一小学校	教育学部教育学科	17	山口　圭介
2	10月22日	相模市立相模第二小学校	教育学部教育学科	8	野口　雄高
3	10月22日	相模市立相模第三小学校	教育学部教育学科	15	佐久間　裕之
4	10月22日	相模市立相模第四小学校	教育学部教育学科	15	今尾　信生
5	10月22日	相模市立相模第六小学校	教育学部教育学科	10	小酒　一仁
6	10月22日	相模市立相模第七小学校	教育学部教育学科	15	大谷　千恵
7	10月22日	相模市立向陽台小学校	教育学部教育学科	11	高永　顕一
8	10月22日	相模市立城山小学校	教育学部教育学科	15	金井　茂夫
9	10月22日	相模市立若草台小学校	教育学部教育学科	27	工藤　月
10	10月22日	相模市立相模第二中学校	教育学部教育学科	7	太田　拓紀
11	10月22日	相模市立相模第三中学校	教育学部教育学科	10	山田　信幸
12	10月22日	相模市立相模第四中学校	教育学部教育学科	6	川崎　誉志喜
13	10月22日	相模市立相模第六中学校	教育学部教育学科	12	赤堀　寒
14	10月22日	横浜市立岡村小学校	教育学部教育学科	9	石井　恭子
15	10月22日	横浜市立日枝小学校	教育学部教育学科	10	江里口　敦人
16	10月22日	横浜市立浜小学校	教育学部教育学科	10	小島　佐恵子
17	10月22日	横浜市立白幡小学校	教育学部教育学科	10	市川　直子
18	10月22日	さふらん幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 6	石川　秀春
19	10月22日	やはた幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	8	岩田　恵子
20	10月22日	矢の口幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 7	朝日　公哉
21	10月22日	相模市立長嶺小学校	教育学部教育学科	17	高島　二郎
22	10月22日	川崎若葉幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	6	曽田　一秀
23	10月22日	四季の森幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 9	首月　芳浩
24	10月22日	港北幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	6	大豆生田　啓友
25	10月22日	西鎌倉幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 7	宮崎　愛
26	10月22日	東一の江幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	4 4	田澤　星喜
27	10月22日	多摩みゆき幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 5	鈴木　美枝子
28	10月22日	相模市立平尾小学校	教育学部教育学科	14	宮島　雄一
29	10月22日	相模市立相模第一中学校	教育学部教育学科	7	長場　愛
30	10月22日	相模市立相模第五中学校	教育学部教育学科	10	峯岸　隆
31	10月22日	横浜市立永田台小学校	教育学部教育学科	9	宮木　直剛
32	10月22日	新宿区立西戸山幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	3 4	吉澤　孝子
33	10月22日	でんえん幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	4 4	小林　勇司
1	10月22日	相模原市立若草中学校	芸術学部パフォーミング・アーツ学科 芸術学部ビジュアル・アーツ学科 芸術学部メディア・アーツ学科	8 1 1	高須　一
2	10月22日	相模原市立共和中学校	芸術学部パフォーミング・アーツ学科 芸術学部ビジュアル・アーツ学科 芸術学部メディア・アーツ学科	3 6 1	辻　裕久
3	10月22日	相模原市立大沢中学校	芸術学部パフォーミング・アーツ学科 芸術学部ビジュアル・アーツ学科 芸術学部メディア・アーツ学科	6 2 1	椿　敏幸
4	10月22日	相模原市立内出中学校	芸術学部パフォーミング・アーツ学科 芸術学部ビジュアル・アーツ学科	5 4	高橋　愛
5	10月22日	相模原市立中央中学校	芸術学部パフォーミング・アーツ学科 芸術学部ビジュアル・アーツ学科	5 5	中島　千絵
6	11月12日	世田谷区立用賀中学校	文学部人間学科	5	宮嶋　真由
7	11月12日	世田谷区立梅丘中学校	文学部人間学科	4	山口　修二
8	11月13日	横浜市立十日市場中学校	文学部人間学科	7	林　太恒
9	11月13日	世田谷区立用賀中学校	文学部人間学科	4	長谷川　洋二
10	11月12日	横浜市立大清中学校	文学部比較文化学科	10	三島　志伸
11	11月12日	世田谷区立三宿中学校	文学部比較文化学科	8	中嶋　真美
12	11月13日	横浜市岸松中学校	文学部比較文化学科	10	太田　恭帆
13	11月13日	横浜市立南高等学校付属中学校	文学部比較文化学科	9	橋本　彩子
14	11月12日	川崎市立南生田中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	10	小笠原　由衣
15	11月12日	川崎市立西生田中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	9	塩澤　秀和
16	11月12日	川崎市立生田中学校	機械情報システム学科 工学部マネジメントサイエンス学科	1 10	豊田　昌史
17	11月12日	川崎市立金程中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	10	佐藤　健治
18	11月12日	川崎市立はるひ野中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	13	日下　芳朗
19	11月12日	藤沢市立滝の沢中学校	文学部比較文化学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	5 7	田坂　宣文
20	11月13日	大田区立東調布中学校	農学部生命化学科	10	田坂　宣文
21	11月12日	神奈川県立鶴嶺高等学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	10	永井　悦子
22	11月12日	神奈川県立上矢部高等学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	9	渡邊　正彦
23	11月12日	藤沢市立湘南台中学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	12	横野　公一
24	11月13日	藤沢市立高倉中学校	文学部人間学科 農学部生物資源学科 農学部生物環境システム学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	2 3 3 4	富田　務

平成26年度

No	実施日	参観家庭学入れ校	対象学部学科	参加人数	引率教員
1	7月8日	さふらん幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 6	石川　秀香
2	7月8日	中央区立京橋朝海幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 5	山本　三紀子
3	7月8日	やはた幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	7	岩田　直子
4	7月8日	四季の森幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	4 5	若月　芳治
5	7月8日	多摩みゆき幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 7	鈴木　美枝子※
6	7月8日	川崎若葉幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 6	豊田　一秀
7	7月8日	新宿区立西戸山幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 4	吉澤　孝子
8	7月8日	東一の江幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 4	田澤　里喜
9	7月8日	港北幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	3 5	大豆生田　啓友※
10	7月8日	矢の口幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	3 5	朝日　公哉
11	7月8日	西鎌倉幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	8	宮崎　亮
12	7月8日	稲城市立稲城第一小学校	教育学部教育学科	13	石井　敏子
13	7月8日	稲城市立稲城第二小学校	教育学部教育学科	6	湯浴　花子
14	7月8日	稲城市立稲城第三小学校	教育学部教育学科	12	佐久間　祐之
15	7月8日	稲城市立稲城第四小学校	教育学部教育学科	13	今尾　佳生
16	7月8日	稲城市立稲城第六小学校	教育学部教育学科	10	小林　勇司
17	7月8日	稲城市立稲城第七小学校	教育学部教育学科	11	大谷　千恵
18	7月8日	稲城市立向陽台小学校	教育学部教育学科	10	高平小百合
19	7月8日	稲城市立城山小学校	教育学部教育学科	12	富永　謙一
20	7月8日	稲城市立長峰小学校	教育学部教育学科	15	太田　裕紀
21	7月8日	稲城市立若葉台小学校	教育学部教育学科	13	宮島　誠一
22	7月8日	稲城市立平尾小学校	教育学部教育学科	13	清水　英美
23	7月8日	横浜市立茅ヶ崎東小学校	教育学部教育学科	10	江里口　敦人
24	7月8日	横浜市立南本宿小学校	教育学部教育学科	10	宮本　直利
25	7月8日	横浜市立今宿小学校	教育学部教育学科	10	市川　直子
26	7月8日	横浜市立柴子田小学校	教育学部教育学科	10	小島　佐恵子
27	7月8日	横浜市立あざみ野第一小学校	教育学部教育学科	10	梅沢　一彦
28	7月8日	相模原市立大野北小学校	教育学部教育学科	10	後藤　克美
29	7月8日	相模原市立橋本小学校	教育学部教育学科	10	山口　生介
30	7月8日	川崎市立菅中学校	教育学部教育学科	10	鈴木　淳也
31	7月8日	川崎市立南生田中学校	教育学部教育学科	10	川端　将志郎
32	7月8日	川崎市立西生田中学校	教育学部教育学科	10	山田　信幸
33	7月8日	川崎市立金程中学校	教育学部教育学科	11	山田　孜
34	7月8日	川崎市立王禅寺中央中学校	教育学部教育学科	12	塩岸　隆
35	7月8日	川崎市立はるひ野中学校	教育学部教育学科	11	赤堀　寛
1	11月13日	大田区立大森第十中学校	文学部比較文化学科 農学部生物環境システム学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	1 3 2 2 2	塩岸　誠
2	11月11日	大田区立御園中学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	10	松本　由美
3	11月12日	神奈川県立横浜旭陵高等学校	芸術学部芸術教育学科	10	辻　祐久
4	11月13日	神奈川県立大和南高等学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	10	小嶋　正敏
5	11月11日	横浜市立牛久保中学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	10	中田　幸司
6	11月11日	横浜市立十日市場中学校	文学部比較文化学科	10	日置　滋之
7	11月11日	横浜市立鶴が丘小中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	10	櫻田　晶史
8	11月12日	横浜市立老松中学校	文学部比較文化学科	10	中嶋　真美
9	11月11日	藤沢市立長後中学校	文学部比較文化学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	1 3 2 4	富田　務
10	11月11日	藤沢市立六会中学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	10	渕川　祥世
11	11月12日	藤沢市立大清水中学校	文学部比較文化学科 農学部生物環境システム学科 工学部マネジメントサイエンス学科 工学部ソフトウェアサイエンス学科 芸術教育学科 リベラルアーツ学科	1 1 1 2 2 3	田坂　宣文
12	11月11日	大和市立引地台中学校	リベラルアーツ部リベラルアーツ学科	6	糸井　悦子
13	11月11日	大和市立南林間中学校	文学部人間学科	6	宮崎　真由
14	11月11日	大和市立鶴間中学校	文学部人間学科	6	有薗座　ジェラード
15	11月11日	大和市立渋谷中学校	工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ部リベラルアーツ学科	1 2 3	升　満知男
16	11月12日	大和市立下福田中学校	文学部比較文化学科	6	太田　英明
17	11月11日	稲城市立稲城第一中学校	農学部生命化学科	7	八巻　一夫
18	11月11日	稲城市立稲城第二中学校	芸術学部芸術教育学科	5	井　卓行
19	11月11日	稲城市立稲城第三中学校	芸術学部芸術教育学科	10	原田　学
20	11月11日	稲城市立稲城第四中学校	芸術学部芸術教育学科	8	加藤　悦子
21	11月11日	稲城市立稲城第五中学校	文学部人間学科	6	太田　明
22	11月11日	稲城市立稲城第六中学校	機械情報システム学科 工学部マネジメントサイエンス学科	1 4	菅原　昭博
23	11月12日	大田区立矢口中学校	芸術学部芸術教育学科	6	村山　にな

平成27年度

No.	実施日	参観実習受入れ校	対象学部学科	参加人数	引率教員
1	6月30日	川崎市立麻生中学校	教育学部教育学科	11	高島二郎
2	6月30日	川崎市立金程中学校	教育学部教育学科	13	山田信幸
3	6月30日	川崎市立長沢中学校	教育学部教育学科	15	鈴木淳也
4	6月30日	川崎市立西生田中学校	教育学部教育学科	16	山田聡
5	6月30日	川崎市立南生田中学校	教育学部教育学科	11	川崎啓志喜
6	6月30日	川崎市立柿生中学校	教育学部教育学科	14	宿谷俊行
7	6月30日	相模原市立田名小学校	教育学部教育学科	10	座俣克美
8	6月30日	相模原市立麻溝台小学校	教育学部教育学科	10	山口圭介
9	6月30日	相模市立豊城第一小学校	教育学部教育学科	15	石井敏子
10	6月30日	相模市立豊城第二小学校	教育学部教育学科	6	中本深
11	6月30日	相模市立豊城第三小学校	教育学部教育学科	12	小島佐恵子
12	6月30日	相模市立豊城第四小学校	教育学部教育学科	14	宮永誠一
13	6月30日	相模市立豊城第七小学校	教育学部教育学科	10	小林勇司
14	6月30日	相模市立向陽台小学校	教育学部教育学科	13	小林伸夫
15	6月30日	相模市立城山小学校	教育学部教育学科	11	高平小百合
16	6月30日	相模市立長竿小学校	教育学部教育学科	16	工藤直
17	6月30日	相模市立若葉台小学校	教育学部教育学科	17	今泉俊生
18	6月30日	相模市立平塚小学校	教育学部教育学科	13	大谷千夏
19	6月30日	相模市立南山小学校	教育学部教育学科	4	佐久間英之
20	6月30日	横浜市立六つ川小学校	教育学部教育学科	10	市川康子
21	6月30日	横浜市立二谷小学校	教育学部教育学科	10	瑞沢一彦
22	6月30日	横浜市立鶴子小学校	教育学部教育学科	10	渡部花子
23	6月30日	横浜市立都筑小学校	教育学部教育学科	9	江藤巧敏人
24	6月30日	横浜市立能見台南小学校	教育学部教育学科	10	小泉一仁
25	6月30日	中央区立京橋朝海幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 6	山本三紀子
26	6月30日	新宿区立西戸山幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 9	吉澤孝子
27	6月30日	認定こども園さふらん	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 10	朝日公敏
28	6月30日	やはた幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	3 5	塩田恵子
29	6月30日	四季の森幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 8	若月芳浩
30	6月30日	府中白糸台幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	4 7	鈴木美枝子
31	6月30日	宮前幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	3 7	豊田一秀
32	6月30日	東一の江幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	3 5	田澤里喜
33	6月30日	港北幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	3 6	大豆生田啓友
34	6月30日	矢の口幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 10	石川秀雄
35	6月30日	西鎌倉幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	11	宮崎豊
1	11月10日	相模市立豊城第一中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	6	三木　秀夫
2	11月10日	相模市立豊城第五中学校	文学部人間学科	6	山口　健二
3	11月10日	相模市立豊城第三中学校	文学部英語教育学科	6	三島　志伸
4	11月10日	相模市立豊城第二中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	6	日下　秀朗
5	11月10日	相模市立豊城第四中学校	芸術学部芸術教育学科	5	林　卓行
6	11月10日	相模市立豊城第六中学校	芸術学部芸術教育学科	6	村山　仁左
7	11月10日	大田区立大森第三中学校	文学部人間学科 文学部英語教育学科 工学部ソフトウェアサイエンス学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科	2 2 3 2 1	坂下　孝憲
8	11月11日	大田区立大森東中学校	文学部人間学科 文学部英語教育学科 工学部ソフトウェアサイエンス学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科	1 3 1 4 1	山田　聡
9	11月10日	大田区立蒲田中学校	文学部英語教育学科	10	鈴木　彰子
10	11月12日	大田区立蒲田中学校	工学部機械情報システム学科 工学部ソフトウェアサイエンス学科 工学部マネジメントサイエンス学科	1 2 7	大久保　英敏
11	11月10日	神奈川県立麻溝台高等学校	芸術学部芸術教育学科	8	加藤　悦子
12	11月11日	神奈川県立鶴岡高等学校	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	8	中村　聡
13	11月11日	神奈川県立横浜桜陽高等学校	文学部英語教育学科 文学部比較文化学科	8 1	工藤　洋路
14	11月11日	相模原市立鳥野森中学校	文学部英語教育学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	2 1 4 3	内田　晴明
15	11月11日	相模原市立上鶴間中学校	文学部英語教育学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	3 1 2 3	吉田　和夫
16	11月11日	相模原市立上溝南中学校	文学部人間学科 文学部英語教育学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科	3 4 1 1	西　勝海

平成28年度

No	実施日	教育実習受入れ校	対象学部学科	参加人数	引率教員
1	6月8日	藤城市立藤城第一小学校	教育学部教育学科	13	石井恭子
2	6月8日	藤城市立藤城第二小学校	教育学部教育学科	4	小原一仁
3	6月8日	藤城市立藤城第三小学校	教育学部教育学科	12	小林亮
4	6月8日	藤城市立藤城第四小学校	教育学部教育学科	13	草永順一
5	6月8日	藤城市立藤城第六小学校	教育学部教育学科	9	小林勇司
6	6月8日	藤城市立藤城第七小学校	教育学部教育学科	15	高平小百合
7	6月8日	藤城市立向陽台小学校	教育学部教育学科	9	工藤亘
8	6月8日	藤城市立城山小学校	教育学部教育学科	10	今尾佳牛
9	6月8日	藤城市立長崎小学校	教育学部教育学科	12	大谷千恵
10	6月8日	藤城市立若草台小学校	教育学部教育学科	16	佐久間裕之
11	6月8日	藤城市立平尾小学校	教育学部教育学科	13	小林幸夫
12	6月8日	藤城市立南山小学校	教育学部教育学科	4	山口圭介
13	6月8日	横浜市立鶴田小学校	教育学部教育学科	9	市川直子
14	6月8日	横浜市立入船小学校	教育学部教育学科	10	梅沢一彦
15	6月8日	横浜市立中村小学校	教育学部教育学科	10	鴨沼邦子
16	6月8日	横浜市立神田小学校	教育学部教育学科	10	小島佐恵子
17	6月8日	横浜市立羽沢小学校	教育学部教育学科	10	林紋子
18	6月8日	相模原市立清野辺小学校	教育学部教育学科	10	渡邊克美
19	6月8日	横浜市立十日市場中学校	教育学部教育学科	12	山田稔
20	6月8日	川崎市立宮前平中学校	教育学部教育学科	10	岩谷俊行
21	6月8日	川崎市立はるひ野中学校	教育学部教育学科	11	山田信宏
22	6月8日	川崎市立南生田中学校	教育学部教育学科	9	川崎栄志喜
23	6月8日	川崎市立長沢中学校	教育学部教育学科	10	鈴木厚志
24	6月8日	川崎市立金程中学校	教育学部教育学科	12	南島未衣子
25	6月8日	川崎市立麻生中学校	教育学部教育学科	11	寺本潔
26	6月8日	川崎市立柿生中学校	教育学部教育学科	10	国里俊夫
27	6月8日	幼保連携型　認定こども園さふらん	教育学部乳幼児発達学科	8	朝日公敏
28	6月8日	宮前幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	7	石川　秀香
29	6月8日	しぜんの国保育園	教育学部乳幼児発達学科	7	岩田　恵子
30	6月8日	港北幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	8	大豆生田啓友
31	6月8日	ききょう保育園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 6	渋谷　行成
32	6月8日	府中白糸台幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 8	鈴木　美枝子
33	6月8日	東一の江幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	8	田澤　里喜
34	6月8日	ひよこ第3保育園	教育学部乳幼児発達学科	7	田南　神野
35	6月8日	西鎌倉幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	2 8	宮崎　豊
36	6月8日	中央区立京橋朝海幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	6	山本　三紀子
37	6月8日	新宿区立西戸山幼稚園	教育学部教育学科 教育学部乳幼児発達学科	1 7	吉澤　孝子
38	6月8日	四季の森幼稚園	教育学部乳幼児発達学科	8	若月　芳浩
1	11月17日	藤城市立藤城第五中学校	文学部英語教育学科	15	日置　滋之
2	11月17日	藤城市立藤城第六中学校	工学部マネジメントサイエンス学科	10	豊田　昌史
3	11月17日	厚木市立依知中学校	文学部人間学科 文学部英語教育学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	1 2 3 2 2	平井　広
4	11月16日	厚木市立相川中学校	文学部人間学科 文学部英語教育学科 農学部生物資源学科 農学部生物環境システム学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	1 1 1 1 3 2 1	平井　広
5	11月17日	厚木市立睦合中学校	文学部英語教育学科 農学部生物資源学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	3 1 2 2 2	平井　広
6	11月17日	神奈川県立横浜桜陽高等学校	農学部生物資源学科 農学部生物環境システム学科 農学部生命化学科	6 2 2	有泉　高史
7	11月17日	神奈川県立相模原中等教育学校	文学部人間学科 文学部英語教育学科 農学部生物資源学科 工学部マネジメントサイエンス学科 工学部機械情報システム学科 工学部ソフトウェアサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	1 2 1 1 1 1 2 1	石川　康子
8	11月16日	神奈川県立舞岡高等学校	文学部人間学科 文学部英語教育学科 工学部マネジメントサイエンス学科 芸術学部芸術教育学科 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	2 3 2 2 1	石川　康子
9	11月17日	神奈川県立麻溝台高等学校	文学部英語教育学科	10	松本　博文

2. 参観実習受講者の意識調査

参観実習の目的は、資料[4]に次のようにある。「参観実習は、１年次生教職課程受講者７００名を対象に、教育ボランティア、３年次の教育実習事前指導、４年次の教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の一日を体験することで、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的に実施している。」

実際、参観実習はどれだけ学生たちの「教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えること」に貢献したのであろうか。この問について調べるため、参観実習受講者の意識調査を実施した。

調査は、平成２８年度に実施した。調査対象者は、学部１年生と４年生である。したがって、１年生は平成２８度に参観実習を実施した学生たちであり、４年生は１年次(平成２５年度)に実施した参観実習に参加した学生たちである。

調査用紙の配布および回収は、次のように実施した。まず、１年生について述べる。文学部人間学科（２５名）では平成２８年１２月２２日実施の教職ガイダンス、文学部英語教育学科（４９名）では平成２９年２月９日実施の履修ガイダンスで調査用紙を配布し、回収した。農学部（生物資源学科、生物環境システム学科、生命化学科）（４０名）では、平成２９年１月２５日実施の教職ガイダンスにて調査用紙を配布し、平成２９年１月３０日から２月３日に教職課程受講届と一緒に回収した。工学部（機械情報システム学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科）（８０名）では、平成２８年１２月９日実施の教職ガイダンスにて調査用紙を配布し、回収した。教育学部（教育学科、乳幼児発達学科）（３８０名）では、平成２８年１２月２日実施の授業「一年次セミナー１０２」の時間内にて調査用紙を配布し、平成２９年１月５日から６日に教職課程受講届と一緒に回収した。芸術学部芸術教育学科（４５名）では、平成２９年２月２１日、２２日実施の学部実技テスト時間内にて調査用紙を配布し、回収した。リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科では、未配布であった。教職課程受講届とは、教職課程を２年生でも続けたい全学部の１年生が提出する書類である。この書類が未提出であれば、学生は教職課程を継続する意思がないものと判断される。４年生では、全学部とも、平成２８年１２月６日、９日に実施した教員免許一括申請ガイダンスにて調査用紙を配布し、回収した。会場の関係で同内容を２回実施したが、６日は３００名、９日は１５０名に対して調査した。

調査用紙は、１年生と４年生同一である。次を参照されたい。

『参観実習』に関する学生アンケート

本アンケートは、『参観実習』の教育的効果の確認のために使用します。次年度以降の『参観実習』実施の際に参考とさせていただきます。

所属学部学科	
現在の学年	１年　・　２年　・　３年　・　４年
性別	男　・　女
参観実習を行った校種	幼稚園　・　小学校　・　中学校　・　高等学校
参観実習を行った地域（小か中で参観実習を行った学生のみ回答）	町田市　・　稲城市　・　横浜市　・　川崎市　・　相模原市　・　藤沢市　・　大和市 厚木市　・　大田区
採用試験の受験（４年生で小・中・高で参観実習を行った学生のみ回答）	参観実習を行った自治体（横浜・川崎・相模原）もしくはその自治体の都道府県（東京・神奈川） 参観実習とは別の自治体を受験（　　） 受験していない
今までにインターンシップや教育ボランティアに行ったことがありますか（４年生のみ回答）	参観実習を行った学校・園で行った　・　参観実習を行った学校・園以外で行った　・　参観実習とは関係ない校種・園などで行った　・　特に行わなかった　・　インターンシップや教育ボランティアに参加したかったが、その他の活動があって行うことが出来なかった
参観実習はインターンシップや教育ボランティアに参加するためのきっかけになりましたか（４年生のみ回答）	きっかけになった　・　どちらかと言えばきっかけになった　・　参観実習とは関係なくインターンシップや教育ボランティアに参加するつもりだった　・　きっかけにはならなかった
参観実習はインターンシップや教育ボランティアに参加するためのきっかけになると思いますか（１年生のみ回答）	きっかけになると思う　・　どちらかと言えばきっかけになると思う　・　参観実習とは関係なくインターンシップや教育ボランティアに参加しようと思っていた　・　きっかけになるとは思わない
参観実習に参加して、教育現場への理解は深まりましたか	深まった　・　どちらかと言えば深まった　・　どちらかと言えば深まらなかった　・　深まらなかった
参観実習に参加して、教職に対する自覚をもつことはできましたか	自覚を持てた　・　どちらかと言えば自覚を持てた　・　どちらかと言えば自覚を持てなかった 自覚は持てなかった
参観実習は、教職に対する進路選択の機会になりましたか	大変良い機会になった　・　良い機会になった　・　特に機会にはならなかった
参観実習では積極的に幼児・児童とかかわりをもてましたか（幼稚園・小学校で参観実習を行った方のみ回答）	できた　・　どちらかと言えばできた　・　どちらかと言えばできなかった　・　できなかった
参観実習に参加する前と後で、教職に対するモチベーションは変化しましたか	変化した　・　どちらかと言えば変化した　・　どちらかと言えば変化しなかった　・　変化しなかった
教職に対するモチベーションはどのように変化しましたか（上記設問で変化したと回答した人のみ回答）	向上した　・　どちらかと言えば向上した　・　どちらかと言えば下がった　・　下がった
参観実習に参加して、目指す教師像は明確になりましたか	明確になった　・　どちらかと言えば明確になった　・　どちらかと言えば明確にならなかった　・　明確にならなかった
参観実習での学びをどう今後に生かします（生かしました）か（自由記述） ※１年生は今後に向けて、４年生は振り返って記述してください	

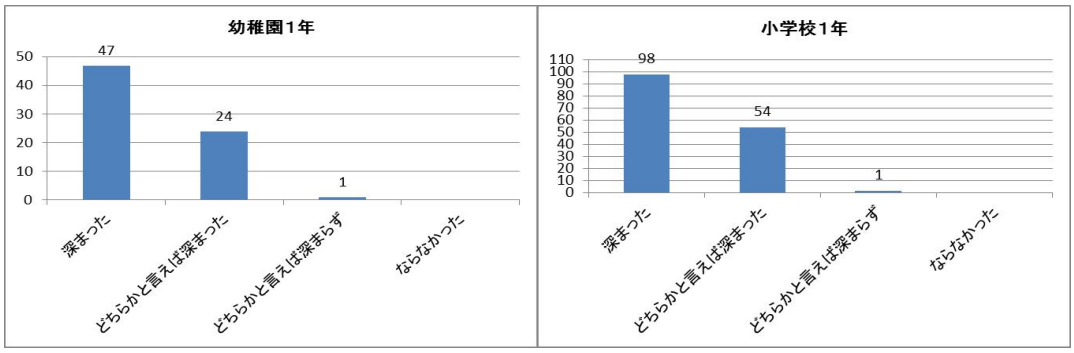
次に、設問ごとの回答結果を述べる。

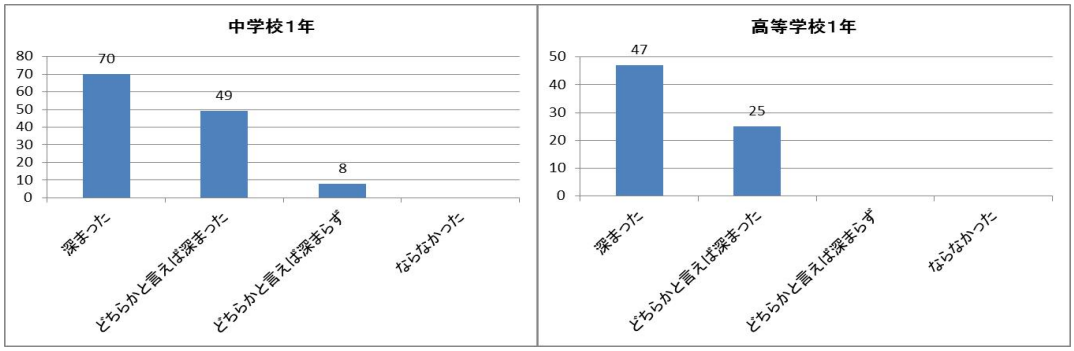
◆設問「参観実習に参加して、教育現場への理解は深まりましたか」

参観実習の目的のひとつは「学生の教育現場への理解を深め」てもらうことである。この設問でその目的がどれぐらい達成されているかを確認したい。

回答は「深まった」「どちらかと言えば深まった」「どちらかと言えば深まらなかった」「深まらなかった」でしてもらった。

１年生の回答結果は、次である。





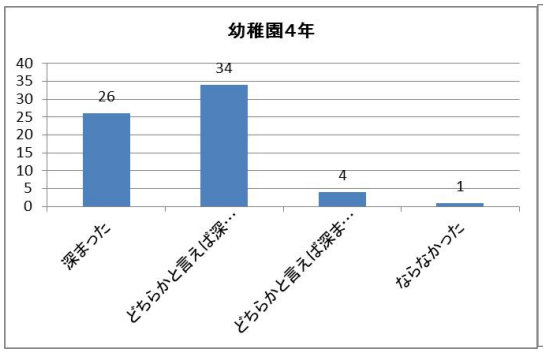
４２４名中、肯定的な回答（「深まった」「どちらかと言えば深まった」）は４１４名である。割合にして約９８％である。１年生のほとんどの学生が、理解が深まったと認識している。次のような記述が自由回答より見られた。

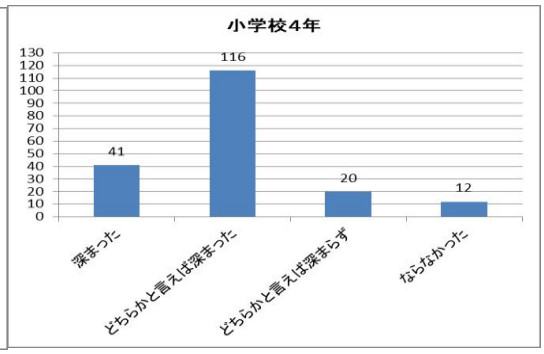
- 子ども達への対応は一人一人違うので、その違いを理解したうえで学びを深めていきたい。（幼稚園 / 教育学科）
- 実際の現場は自分の想像とは全く違い、楽しくも厳しいものであると知りました。ただ楽しいだけで出来る仕事ではないと知れたので気を引きしめてがんばりたいと思う。

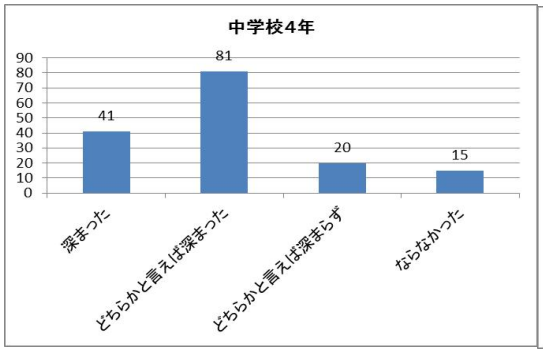
（幼稚園 / 乳幼児発達学科）

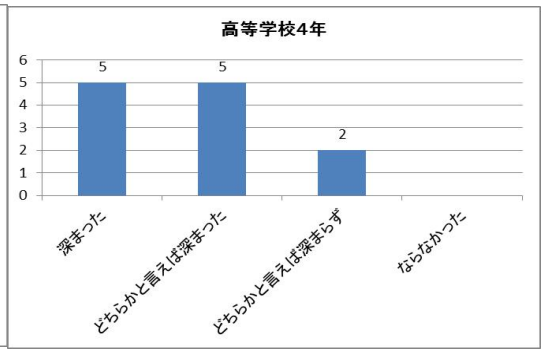
- 子どもはただ答えを教えてもらうだけでは納得できない。なぜそうなるのか子どもにわかるように説明しなくてはならない。授業はもちろん、言い争いや、グループワークなど子どもに納得してもらえるような指導を身につけたい。（小学校 / 教育学科）
- 私は小学校から大学まで私立だったため、公立の実態を知る良い機会になりました。(小学校 / 教育学科)
- 参観実習の中で最も印象に残ったことは教師と児童との距離感だ。想像していたような教師と児童が仲良く楽しげにという関係ではなくあくまで教師は教師、児童は児童として一定の距離を保っている関係だった。こうした関係によって児童は教師を頼れる大人として見ることができ信頼関係の構築につながるのだと感じた。実際に見なければ気づけないことが様々にあった。それらのことを意識して日ごろの勉学に励みたい。（小学校 / 教育学科）
- 参観実習に行き現在の教育現場の様子を知ることができた。問題点もあり、その問題点を教師がどう改善していくかがとても重要だと感じた。自分が教師となった時にどのように教えていくか考え生活を送っていきたい。（中学校 / 教育学科）
- 教師の大変さを目の当たりにし、教師になるまですべきことを改めて考えさせられた。（中学校 / 芸術教育学科）
- 母校以外の学校を見て、地域によって生徒の様子が変わることが分かった。様々な生徒に将来対応できるように色々な人と関わり様々なことを経験したい。(高等学校 / 英語教育学科）

また、４年生の回答結果は次のようになる。









４２３名中、肯定的な回答（「深まった」「どちらかと言えば深まった」）は３４９名である。割合にして約８３％である。１年生に比べれば否定的な回答をする学生が増えたが、おおむね肯定的な回答である。次のような記述が自由回答より見られた。

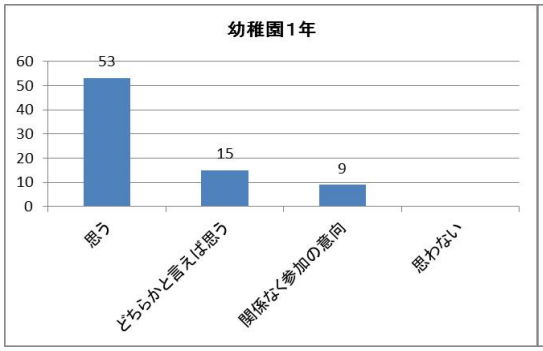
- ４年生の実習が最初の実習にはならず、一日の生活にふれることができてよかった。(幼稚園 / 教育学科)
- 様々な幼稚園を見たいと思っていたので、その一つとして参観できたことはよかった。１年生のうちに幼稚園の実際の姿や雰囲気を知ることができたので、その後の授業や実習で子どもの姿をイメージすることができた。(幼稚園 / 乳幼児発達学科)
- 学校の一日の流れがわかった。(小学校 / 教育学科)
- 参観実習での子どものきらきらした笑顔や、「絶対に先生になってね」という言葉が勉強を頑張る励みになった。(小学校 / 教育学科)
- 特別支援の生徒等を見て、自分が学ぶべきことを明確にすることができた。(中学校 / 比較文化学科)
- 都道府県でそれぞれ生徒の様子が違うと思っていたが、実際はあまり変わらないかと感じた。ただ、制服の着方や都会と地方での差というものはあった。子どもということには変わりなく、実習でも役に立った。(中学校 / マネジメントサイエンス学科)
- 実際の教育現場の雰囲気を早い段階から体験できてよかったです。(高等学校 / リベラルアーツ学科)

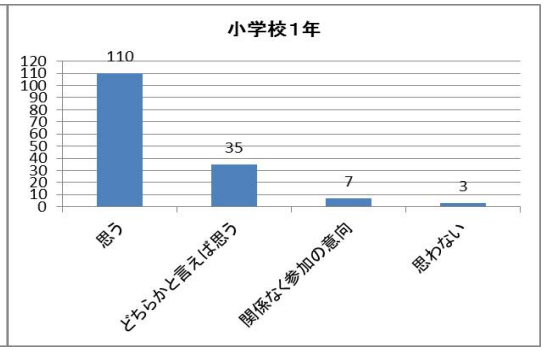
◆設問「参観実習はインターンシップや教育ボランティアに参加するためのきっかけになると思いますか（１年生のみ回答)」

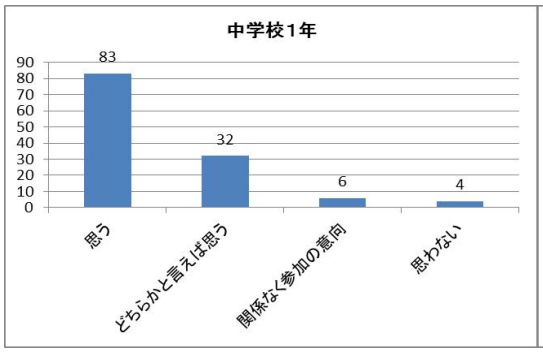
参観実習の目的のひとつは「学生の教育現場への理解を深め」てもらうことである。一日だけの参観では、教育現場の理解は不十分であることに気づいてほしい。参観実習がその後のインターンシップや教育ボランティアなど、教育現場に積極的に参加するきっかけになって欲しい。この設問でその目的がどれぐらい達成されているかを確認したい。

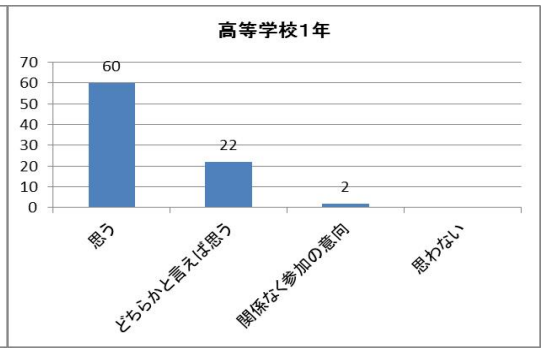
回答は、「きっかけになると思う」「どちらかと言えばきっかけになると思う」「参観実習とは関係なくインターンシップや教育ボランティアに参加しようと思っていた」「きっかけになるとは思わない」である。

回答結果は、次である。









４４１名中、肯定的な回答（「きっかけになると思う」「どちらかと言えばきっかけになると思う」）は４１０名であった。割合にして約９３％である。１年生のほとんどの学生が、参観実習がインターシップや教育ボランティアに参加するためのきっかけになると認識している。次のような記述が自由回答より見られた。

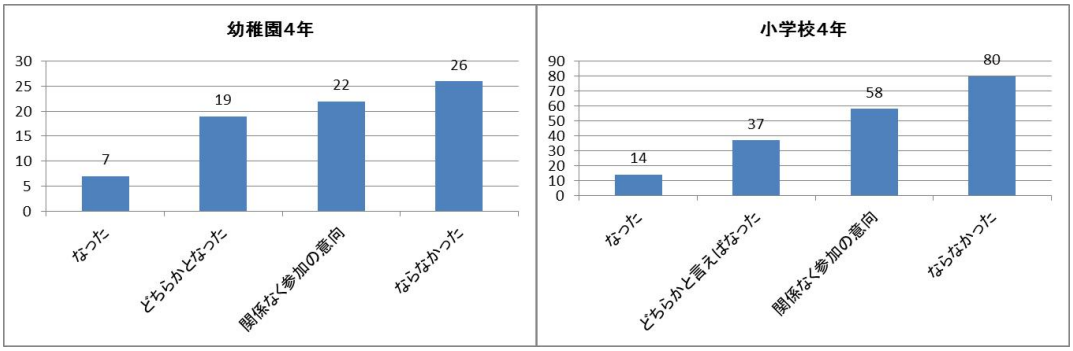
- インターンシップ、ボランティア等現場で経験を積みたいと思った。（幼稚園 / 教育学科）
- この参観実習をきっかけに、3 セメスターで教育ボランティアを受けようと思うので、実習での経験を実践できたらと思います。（小学校 / 芸術教育学科）
- 今回はクラスに配属されなくて、1 クラス 20 分位見ていただけだったから子どもと接する機会がなくて先生とも直接お話しできずに終わってしまった。だからはやめにボランティアに参加し、直接子どもと関わって先生にも聞いたりしたいと思う。（小学校 / 教育学科）
- 教育ボランティアなどで子どもと関わるのが必要だと思った。（中学校 / 英語教育学科）

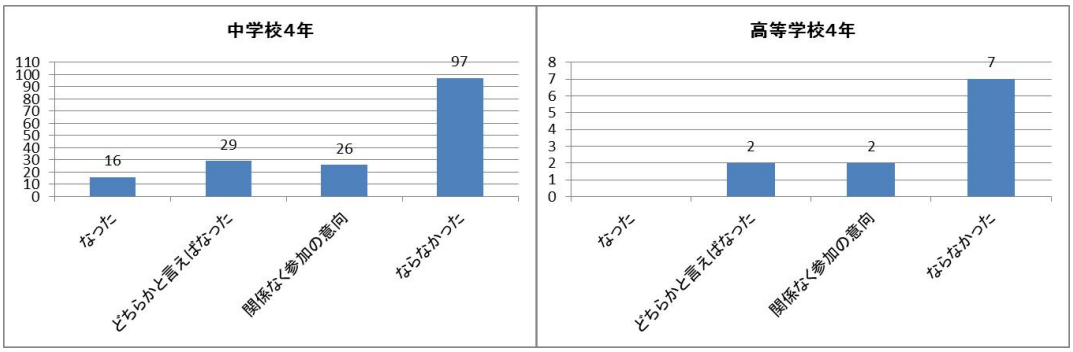
- 今回で終わりではなくボランティアなどに参加して理解をより深める。(中学校 / マネジメントサイエンス学科)
- 今後、学校やインターンや、その他ボランティアを行いたいと思う。(中学校 / 芸術教育学科)
- 一日だけでまだまだ見てみたいと感じたのでボランティア等に積極的に参加したい。(高等学校 / マネジメントサイエンス学科)

◆設問「参観実習はインターシップや教育ボランティアに参加するためのきっかけになりましたか（４年生のみ回答)」

回答は、「きっかけになった」「どちらかと言えばきっかけになった」「参観実習とは関係なくインターンシップや教育ボランティアに参加するつもりだった」「きっかけにはならなかった」である。

回答結果は、次である。





４４２名中、肯定的な回答（「きっかけになると思う」「どちらかと言えばきっかけになると思う」）は１２４名であった。割合にして約２８％である。「参観実習とは関係なくインターンシップや教育ボランティアに参加するつもりだった」は１０８名で約２４％、「きっかけにはならなかった」は２１０名で約４８％である。約７２％の学生が、「参観実習は

インターシップや教育ボランティアに参加するためのきっかけにならなかった」と認識している。

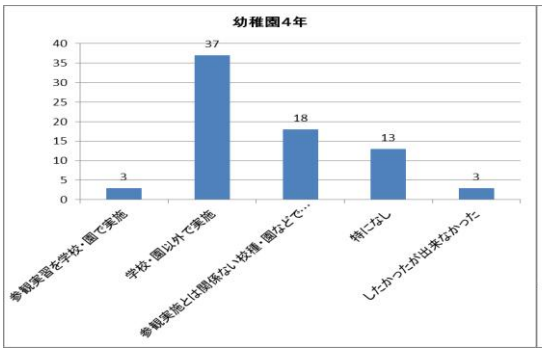
１年生の約９３％が肯定的な回答をしていたことに比べれば、４年生は約２８％と少ない。しかし、実際に４人に１人以上もの学生にとって、インターンシップや教育ボランティアに参加するきかっけとなっている。次のような記述が自由回答より見られた。

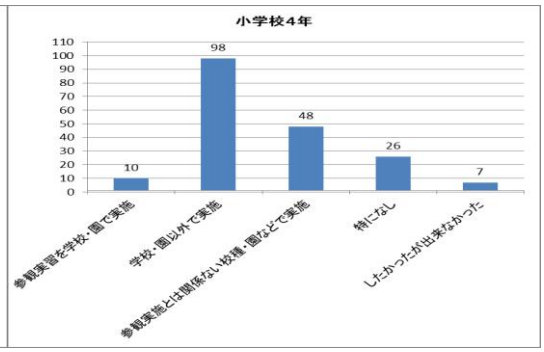
- ボランティアの行くきっかけとなった。(小学校 / 教育学科)
- 参観実習は小学校を卒業してから初めて小学校現場に入ることができる機会でした。普段小学生とふれる機会もあまりないのに小学校の教員を目指している私にとって多くの学びができる場だった。自分にはさらに小学校について知る必要があることを実感したため今はボランティアとして地域の小学校に行っている。(小学校 / 教育学科)
- 一日の参観実習では、少し不充分かなと思いました。現場を見ることは必要だと思いますが、他のボランティアやインターンシップをしていないとたった一日の経験が、次現場に行くまでの間の視野をせばめることにもなってしまうと思いました。（小学校 / 教育学科）
- もっと現場のことを知りたいと思い、学生ボランティア活動をはじめるきっかけとなりました。(中学校 / 比較文化学科)
- 今後、学校やインターンや、その他ボランティアを行いたいと思う。(中学校 / 芸術教育学科)
- 参観実習は中学校に行ったが小学生とも関わりを持ちたいと考え小学生のボランティアを始めた。(中学校 / 英語教育学科)

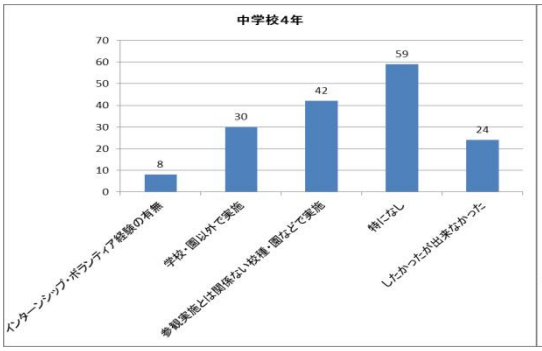
◆設問「今までにインターシップや教育ボランティアに行ったことがありますか（４年生のみ回答)」

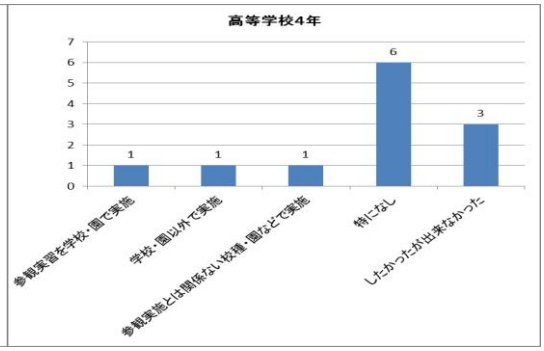
１年生の時に参観実習に参加した学生は、４年間のうちにインターンシップや教育ボランティアを実際にどれだけ参加したのであろうか。また、参観実習を行った教育現場でその後もインターンシップや教育ボランティアを行った学生はどれだけいるのであろうか。この設問で確認したい。

回答は、「参観実習を行った学校・園で行った」「参観実習を行った学校・園以外で行った」「参観実習とは関係ない校種・園などで行った」「特に行わなかった」「インターンシップや教育ボランティアに参加したかったが、その他の活動があって行うことが出来なかった」である。









４３８名中、参観実習を行った学校・園でインターンシップや教育ボランティアを行った学生は２２名であった。割合として約５％である。参観実習を行った学校ではないが、その後、インターンシップや教育ボランティアを行った学生（「参観実習を行った学校・園以外で行った」「参観実習とは関係ない校種・園などで行った」）は２７５名であった。割合として約６３％である。実に約６８％の学生がインターンシップや教育ボランティアを行ったことになる。次のような記述が自由回答より見られた。

- 自分の地元のボランティアを探すようになった。(小学校 / 教育学科)
- 参観実習に参加したことで大学での学びだけではなく実際に現場に赴いて学ぶ機会を定期的に持つことが大切だと感じた。そこで私は参観実習後も実習校に教育ボランティアという形で週に一度お世話になっている。二年生になったらインターンシップにも参加したいと考えている。(小学校 / 教育学科)
- 一日という短い時間の中で、授業、休み時間、部活と、とても濃い参観をすることができ、教員になりたいという気持ちが高まった。また、ボランティアをしてみたいというきっかけになった。(中学校 / 教育学科)
- 副教頭先生に声をかけて頂き、ボランティアを行う機会が出来た。障害を持つ生徒さんの支援をさせて頂き接し方や学習の対応の仕方などを学べた。(中学校 / 人間学科)
- 現場を知る必要性は感じたため、教育ボランティアに積極的に取り組み、目指すべき

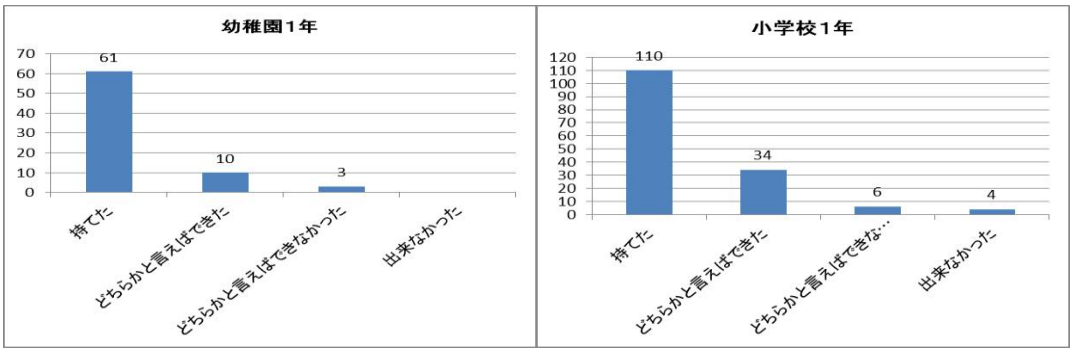
教師やどんな子どもを育てたいかを考えることができた。(中学校 / マネジメントサイエンス学科)

◆設問「参観実習では積極的に幼児・児童とかかわりをもてましたか（幼稚園・小学校で参観実習を行った方のみ回答)」

「教育現場への理解を深める」ためには、幼児や児童と積極的にかかわりをもつ必要がある。学生は、どれだけ参観実習において幼児や児童とかかわりをもてたのであろうか。この設問で確認したい。

回答は「できた」「どちらかと言えばできた」「どちらかと言えばできなかった」「できなかった」である。

１年生の回答結果は、次である。

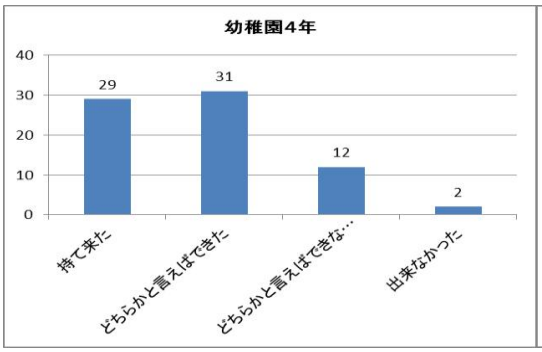


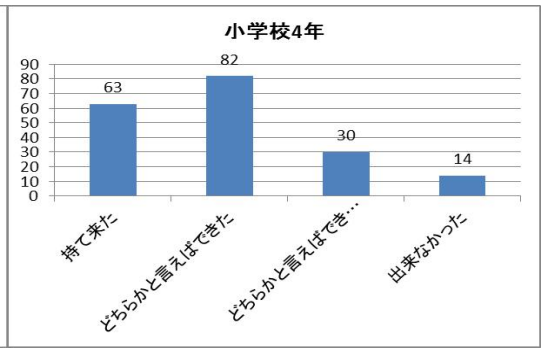
２２８名中、肯定的な回答（「できた」「どちらかと言えばできた」）は２１５名であった。割合にして約９４％である。ほとんどの学生が積極的に幼児、児童とかかわりをもてたようである。次のような記述が自由回答より見られた。

- 参観実習ではその園での保育環境や子ども達の生活の様子など様々なことを見て学ぶことができとても良い経験になりました。しかし、緊張していたこともあり私はあまり積極的に子どもと関わることができませんでした。今後はこの経験をもとにインターンシップ等を利用して実際に現場へ行き子どもと関わることに慣れより積極的に行動できるようにしたい。(幼稚園 / 乳幼児発達学科)
- 私が参観実習で行ったクラスには発達障害を持っている児童が二人いて特別支援を勉強したい私にはとても良い経験になりました。しかし実際にそのような児童と対面した時、まだまだ適切な対応の仕方がわからず、もっと障害を持った子供と関わりたいと思った。(小学校 / 教育学科)
- 参観実習を通し、実際に生徒と関わる中で、自分が苦手とする場面が明らかになった。そのため、教師になる上で習得しなければいけないことは何かを考えながら、苦手なこと、不得意としていることを徐々に改善していきたいと思っている。(小学校 / 芸術

教育学科）

４年生の回答結果は、次である。





２６３名中、肯定的な回答（「できた」「どちらかと言えばできた」）は２０５名であった。割合にして約７８％である。次のような記述が自由回答より見られた。

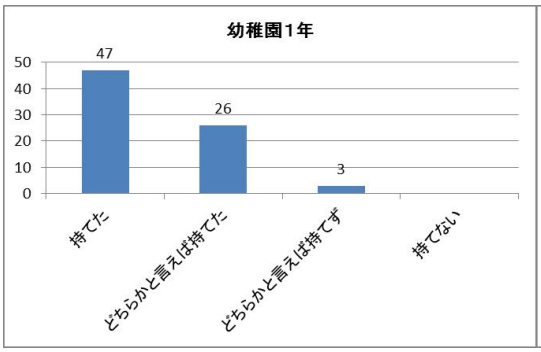
- 子どもとふれあういい機会になった。（幼稚園 / 乳幼児発達学科）
- 参観実習では、実際に子どもと関わる機会があり、子どもの姿をよく知る事ができたように思いました。また、自分は幼稚園へ行ったことがなかったので幼稚園を知ることができました。（幼稚園 / 乳幼児発達学科）
- 実際の小学校で、一日の流れや子どもと関わることができるのは非常に良いこと。大学一年でそれを経験できるのは少なからずプラスになると思います。（小学校 / 教育学科）
- 参観実習は、休み時間や給食の時間などで児童に関わる機会があるが、授業等の時間は参観するだけなので、ボランティアで児童たちと関わる機会をもたなければ・・！という気持ちをもつことができた。（小学校 / 教育学科）

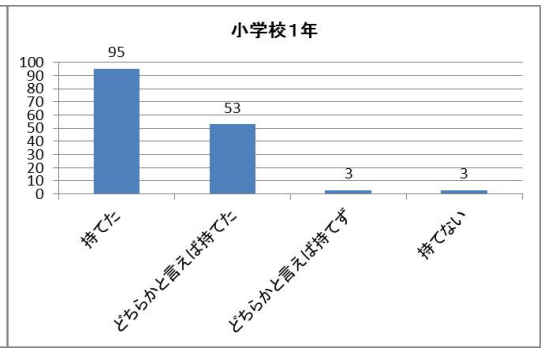
◆設問「参観実習に参加して、教職に対する自覚をもつことはできましたか」

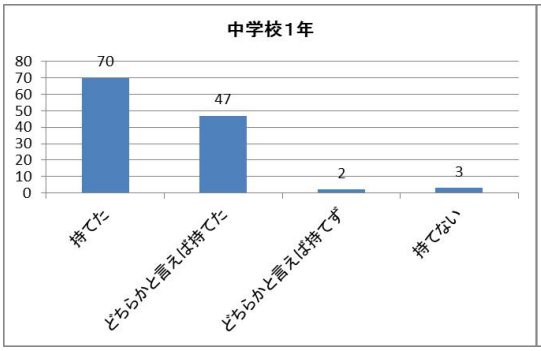
参観実習の目的のひとつは「教職に対する自覚を促す」ことである。この設問でその目的がどれぐらい達成されているかを確認したい。

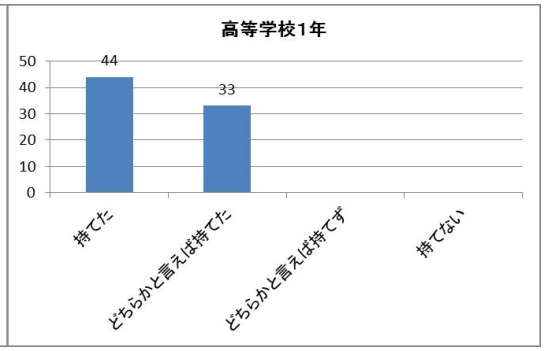
回答は、「自覚を持てた」「どちらかと言えば自覚を持てた」「どちらかと言えば自覚を持てなかった」「自覚は持てなかった」である。

１年生の回答結果は、次である。





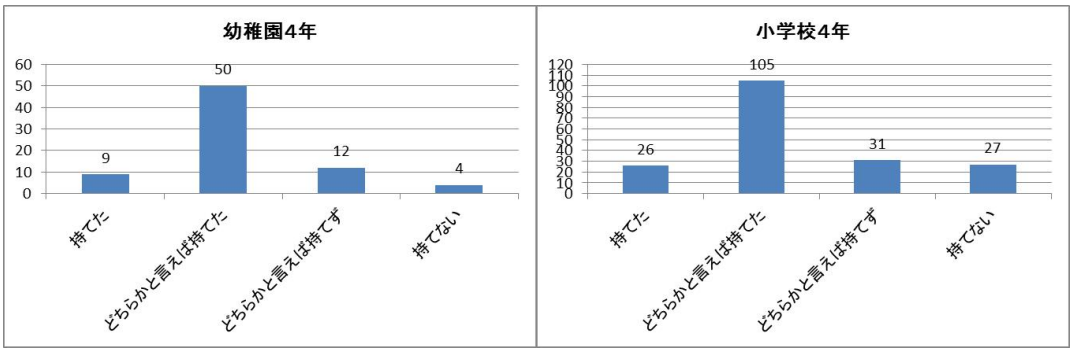


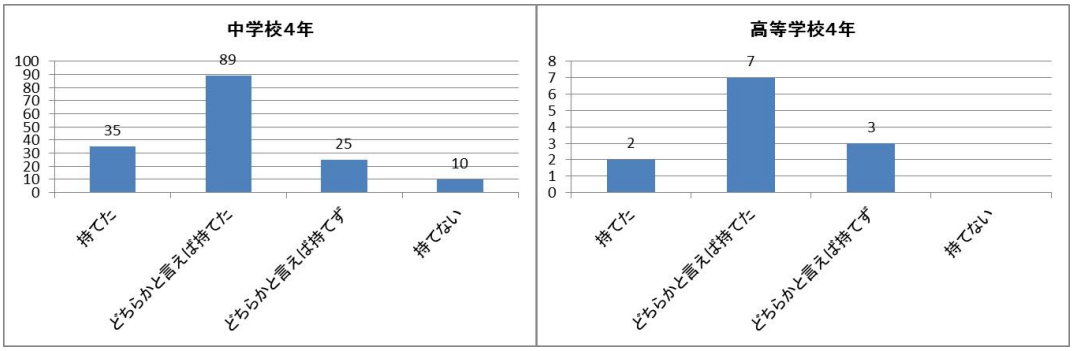


４２９名中、肯定的な回答（「自覚を持てた」「どちらかと言えば自覚を持てた」）は４１５名であった。割合にして約９７％である。教職に対する自覚は、教職の大変さ、自分がこれからやらないといけないことの自覚につながったようである。次のような記述が自由回答より見られた。

- 参観実習先の先生方の黒板の字がとてもきれいだったので、私も日ごろから丁寧に字を書くようにする。(小学校 / 教育学科)
- 想像以上に素直じゃない子が多かったから、現場にでることは大変だと感じた。(小学校 / 教育学科)
- 教師の大変さを目の当たりにし、教師になるまですべきことを改めて考えさせられた。(小学校 / 芸術教育学科)
- 専門知識も必要だが教科ごとに教師が変化するため、信頼関係を築くのは難しいと考えるため生徒との向き合い方も学んでいきたいと思った。(中学校 / 教育学科)

４年生の回答結果は、次である。





４３５名中、肯定的な回答（「自覚を持てた」「どちらかと言えば自覚を持てた」）は２９３名であった。割合にして約６７％である。１年生ほどではないが、４年生も多くの学生が参観実習で教職に対する自覚をもてたようである。次のような記述が自由回答より見られた。

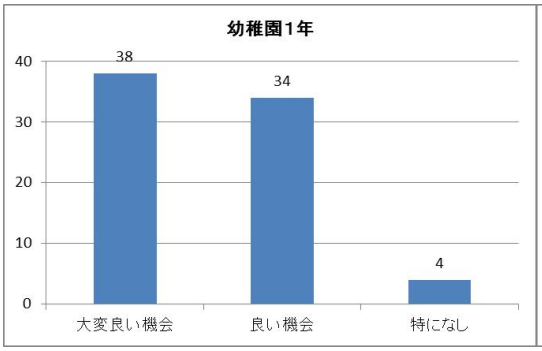
- 参観実習を通して「子どもを見守る」ということの大切さを学んだため、すぐに支援するのではなく、まずは見守るということを行っていきたいと思いました。(小学校 / 教育学科)
- 教育実習では、授業を行うにあたっての教材準備に非常に時間がかかることがわかった。そのため、自分の体調管理をしっかりしなければ身体をこわすということがわかった。（小学校 / 教育学科）
- 一日という大変短い時間の中で、児童とコミュニケーションをとることで、改めて教師という職業の魅力を感じることができた。（小学校 / 教育学科）
- 教師になるというあいまいな気持ちではいけないということを強く学んだ。（中学校 / 生物資源学科）
- 現場をみるよい機会だったので、生徒の雰囲気などを学べた。様々な所に目を向けるようにしたい。（高等学校 / リベラルアーツ学科）

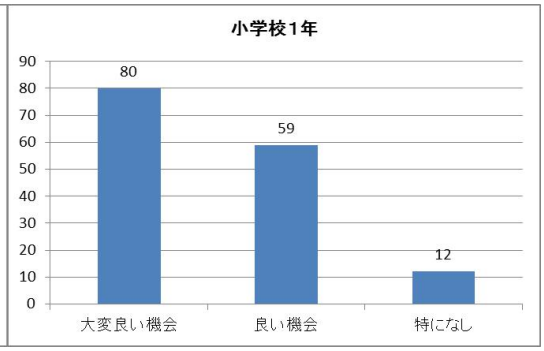
◆設問「参観実習は、教職に対する進路選択の機会になりましたか」

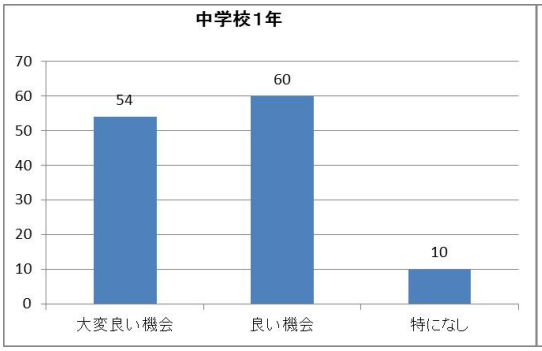
参観実習の目的のひとつは「進路選択の機会を与える」ことである。この設問でその目的がどれぐらい達成されているかを確認したい。

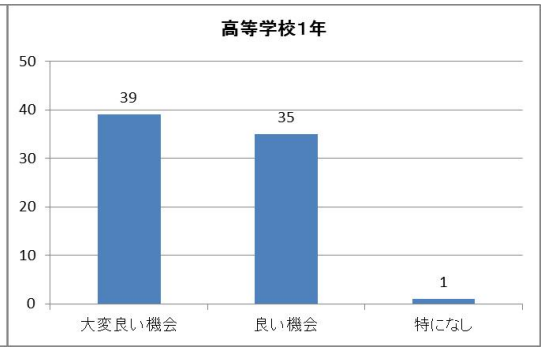
回答は、「大変良い機会になった」「良い機会になった」「特に機会にはならなかった」である。

１年生の回答結果は、次である。









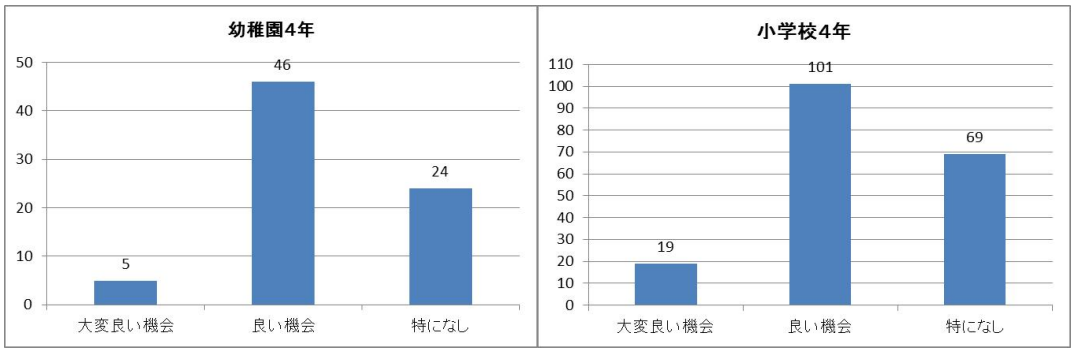
４２６名中、肯定的な回答（「大変良い機会になった」「良い機会になった」）は３９９名であった。割合にして約９４％である。参観実習は、進路を考えるよい機会となったようである。次のような記述が自由回答より見られた。

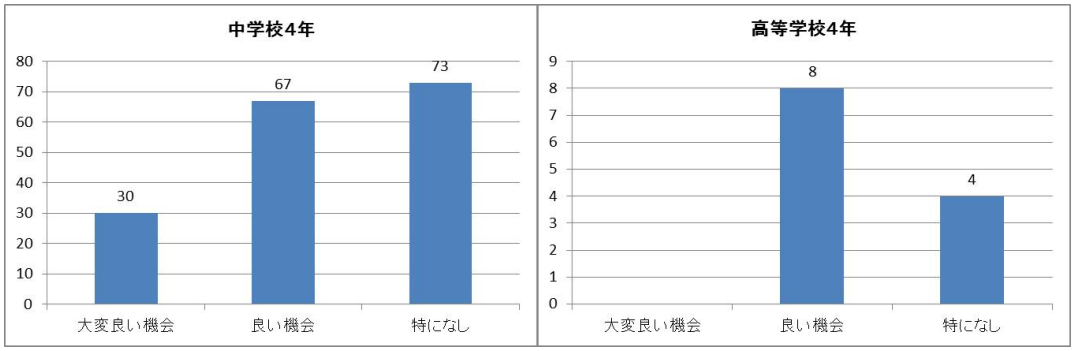
- 将来どこに就職するかについて非常に考えさせられました。（小学校 / 教育学科）
- 逆に私が教師になりたいのか疑問になり始めた。社会に出た時のための良い訓練になるとは思った。（小学校 / 教育学科）
- 教職という職業がどれほど大変で責任を持たなければいけないのかよく分かった。それを踏まえて改めて進路を考えるきっかけになった。（中学校 / 芸術教育学科）
- 本当に教師に向いているのかなどを考え直すきっかけとなったので、この実習のことを忘れずこれからの３年ほどを大切にしていきたいと思った。（中学校 / マネジメン

トサイエンス学科）

- 今回を機に、本当に向いているのか、この道に進みたいのかわからなくなった。今後ちゃんと考えていきたいと思った。（中学校 / マネジメントサイエンス学科）
- 中学校の教育現場を見てよく考えると教職に就くだけでなく教育自体を考え変えていけるような立場にもなりたいと感じた。今後は教育現場をもっと見てどうしていくべきか教育自体のどこがだめなのか考えていきたい。（中学校 / 英語教育学科）

４年生の回答結果は、次である。





４４６名中、肯定的な回答（「大変良い機会になった」「良い機会になった」）は２７６名であった。割合にして約６９％である。１年生ほどではないが、４年生も参観実習は進路選択のよい機会となったと評価している。次のような記述が自由回答より見られた。

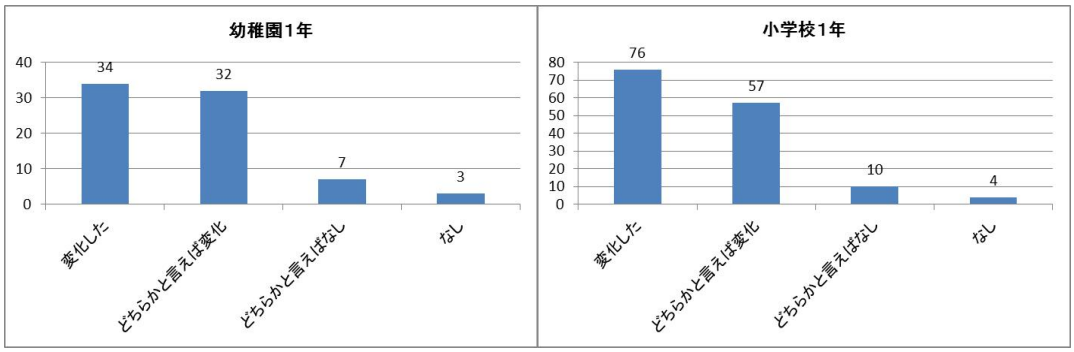
- 教職に向いているか、そうでないかわかる良い機会だと思う。（小学校 / 教育学科）
- 教師になるかならないか、考える機会にはなったと思います。（中学校 / 生命化学科）
- 自分がなぜ教師になりたいのか、どんな生徒を育てたいのか、真剣に考えるようになった。（中学校 / 生物環境システム学科）
- 教員を目指す、目指さないに関係なしに社会人として働くということについて実感した。（中学校 /ビジュアルアーツ学科）

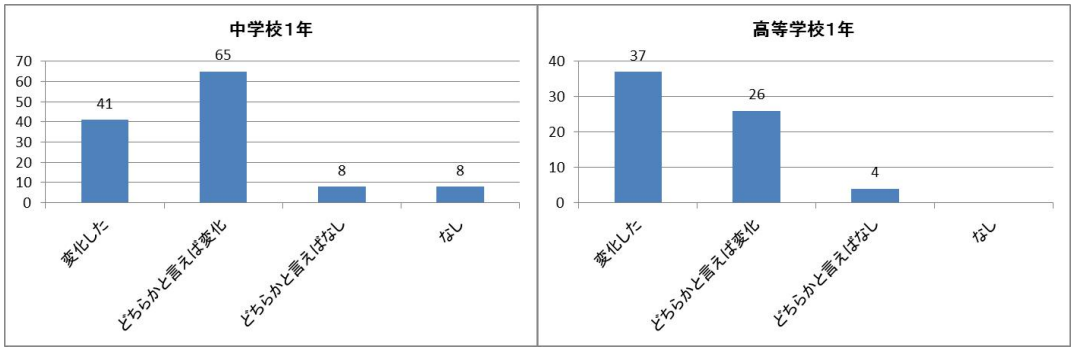
◆設問「参観実習に参加する前と後で、教職に対するモチベーションは変化しましたか」

参観実習の目的のひとつは「教職に対する自覚を促す」ことである。自覚した証として、教職に対するモチベーションが向上して欲しい。この設問でその目的がどれぐらい達成されているかを確認したい。

回答は、「変化した」「どちらかと言えば変化した」「どちらかと言えば変化しなかった」「変化しなかった」である。

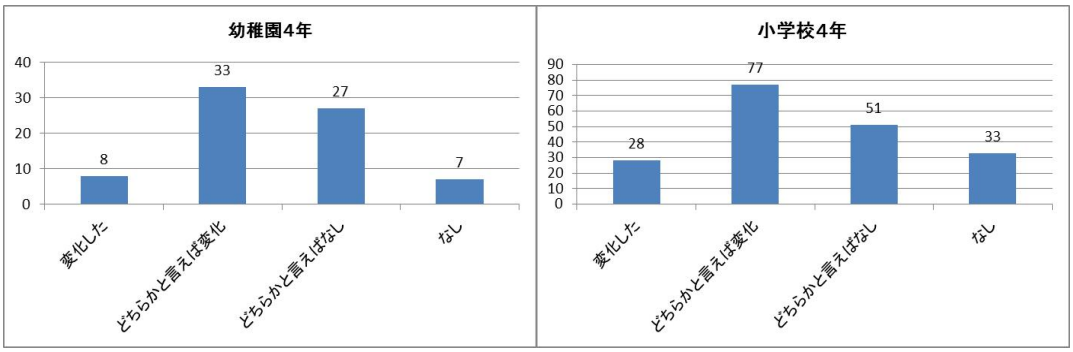
１年生の回答結果は、次である。

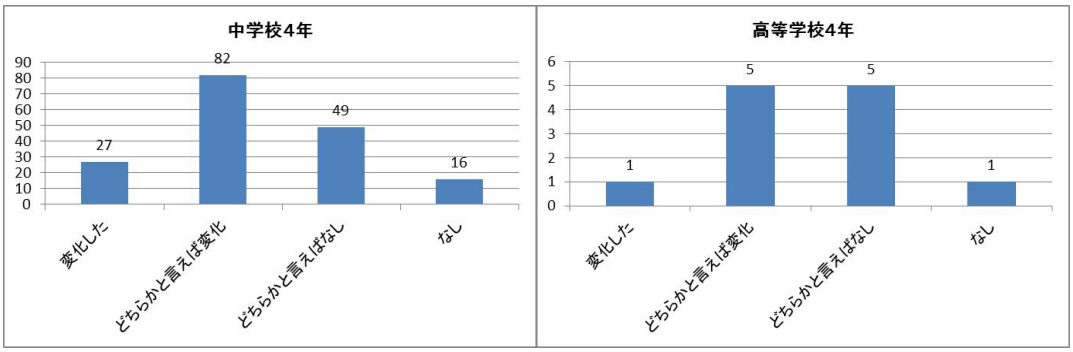




４１２名中、肯定的な回答（「変化した」「どちらかと言えば変化した」）は３２８名であった。割合にして約８０％である。

４年生の回答結果は、次である。





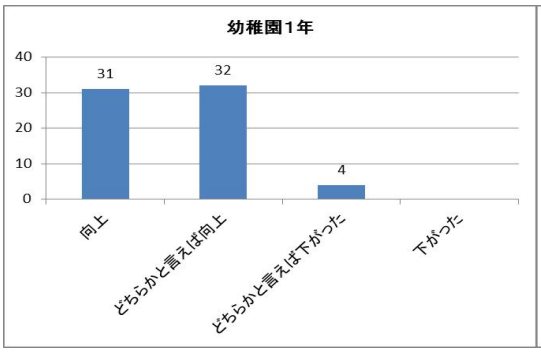
４５０名中、肯定的な回答（「変化した」「どちらかと言えば変化した」）は２６１名であった。割合にして５８％である。

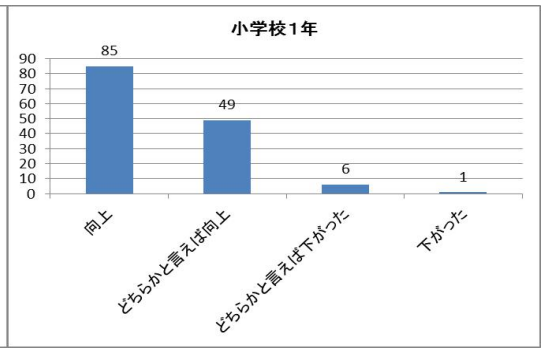
◆設問「教職に対するモチベーションはどのように変化しましたか（上記設問で変化したと回答した人のみ回答)」

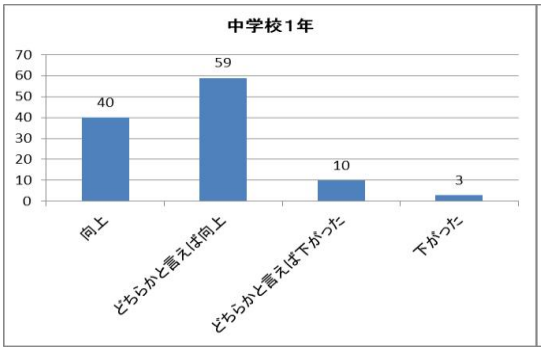
先の設問で確認できたように、１年生の約８０％、４年生の５８％が、参観実習によって教職に対するモチベーションが変化したとしている。その変化は、できれば教職に対するモチベーションが向上したものであって欲しい。この設問で確認したい。

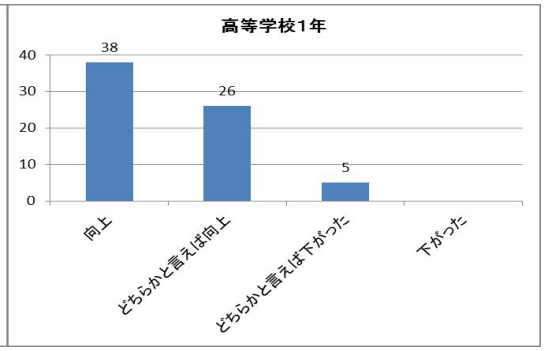
回答は、「向上した」「どちらかと言えば向上した」「どちらかと言えば下がった」「下がった」である。

１年生の回答結果は、次である。





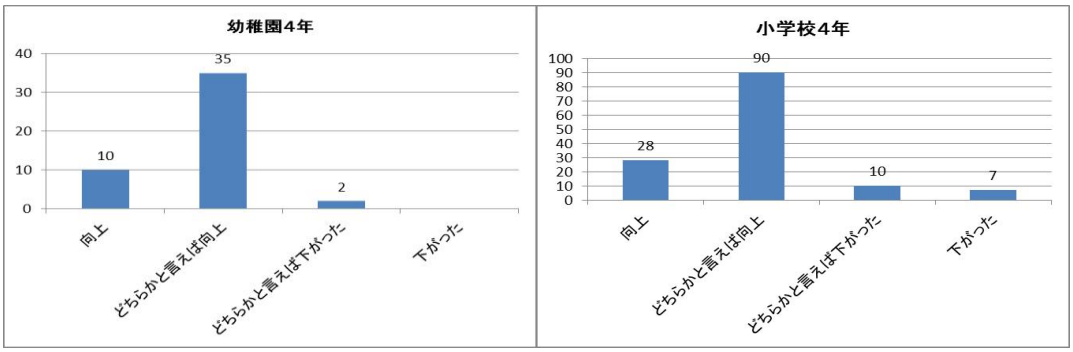


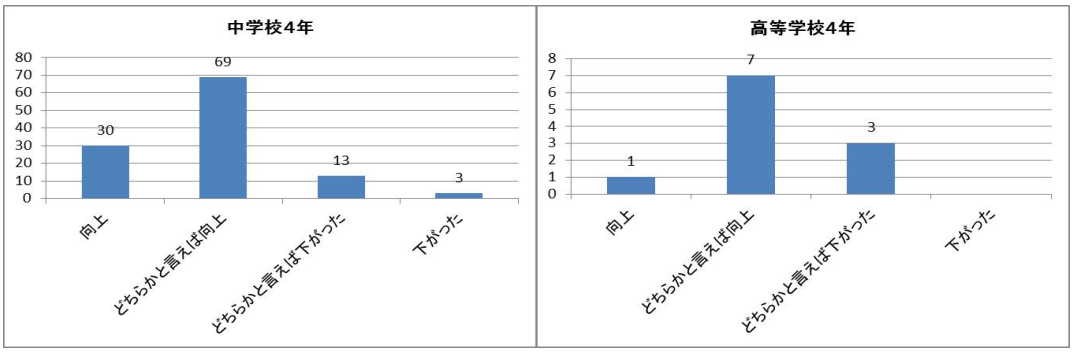


３８９名中、肯定的な回答（「向上した」「どちらかと言えば向上した」）は３６０名であった。割合にして約９３％である。多くの学生が、参観実習によって教職に対するモチベーションが向上したようである。次のような記述が自由回答より見られた。

- 私は教師になりたいという強い気持ちがあったわけではなく、免許が取得できればいいというような考えでした。でも、参観実習で児童と関わり教師になるのも悪くないと思うようになり、教師になるとしたら中途半端な気持ちではいけないと感じるようになった。だから今後自分の進路をもう一度考え直し、日々の授業を大切にしていこうと思っています。(小学校 / 教育学科)
- 参観実習を通して描いた自分の教師像に、少しでも近づけるよう、知識を増やしたり、実技を向上させたりと努力をしたい。(小学校 / 芸術教育学科)
- 一生懸命日々の課題を取り組もうと改めて感じた。(中学校 / 教育学科)
- まだ先だからという風に考えず、今から意識をもって学習に取り組みたい。（高等学校 / 英語教育学科）

４年生の回答結果は、次である。





３０８名中、肯定的な回答（「向上した」「どちらかと言えば向上した」）は２７９名であった。割合にして約９１％である。４年生の多くも、参観実習が教職に対するモチベーションを向上させるものであったと評価している。次のような記述が自由回答より見られた。

- 子どもとの関わり方を言葉として理解するだけでなく、直接的に学ぶことが出来たのでこの経験とプラス言葉で得た学びで今後、子どもと関わって行きたいと思っている。(幼稚園 / 乳幼児発達学科)
- 初めて現場を見ることができて、色々なことを考えたことを覚えています。幼稚園での工夫や先生方の様子を、その時の自分なりに考え、その後の授業を聞く時の参考になりました。（幼稚園 / 乳幼児発達学科）
- 教師とは違う道を歩むことにしたが、どこに行っても「人」がいてこその仕事だと思うので、相手を思って行動するということを常に心がけることを忘れず、生かしていきたい。（小学校 / 教育学科）
- 発達心理学に興味を持ち理解を深めようと学習したり、指導法の講義に積極的に参加した。（中学校 / 教育学科）

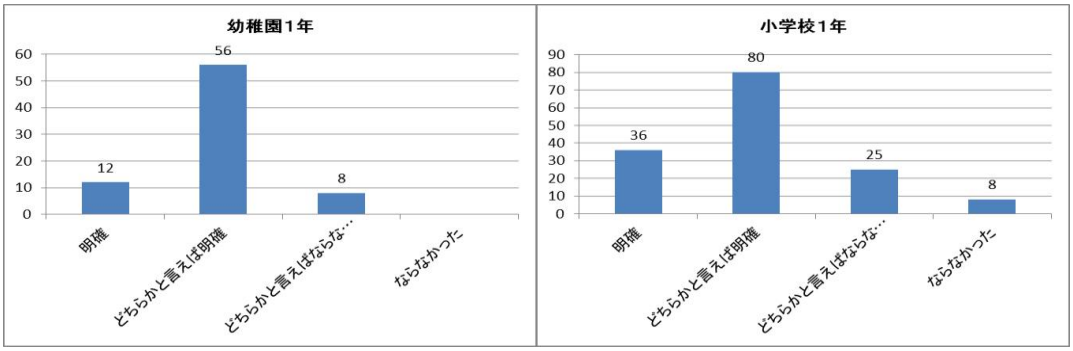
◆設問「参観実習に参加して、目指す教師像は明確になりましたか」

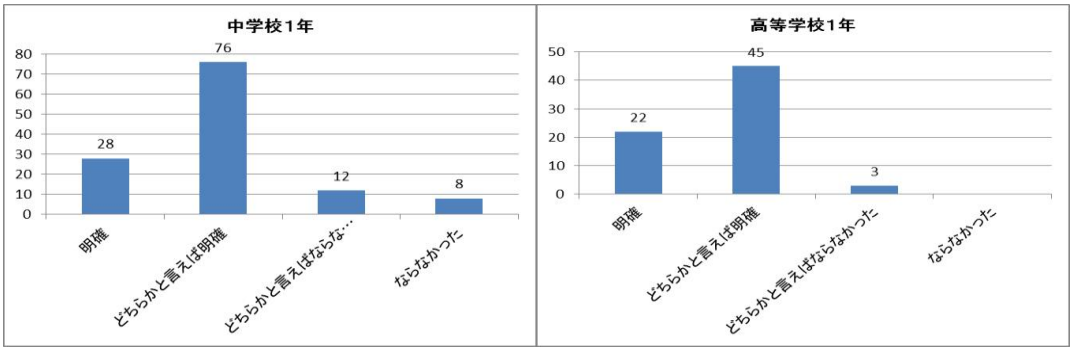
参観実習の目的は「教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路

選択の機会を与えること」ことである。参観実習が、学生の目指す教師像を明確にするものであって欲しい。この設問でその目的がどれぐらい達成されているかを確認したい。

回答は、「明確になった」「どちらかと言えば明確になった」「どちらかと言えば明確にならなかった」「明確にならなかった」である。

１年生の回答結果は、次である。



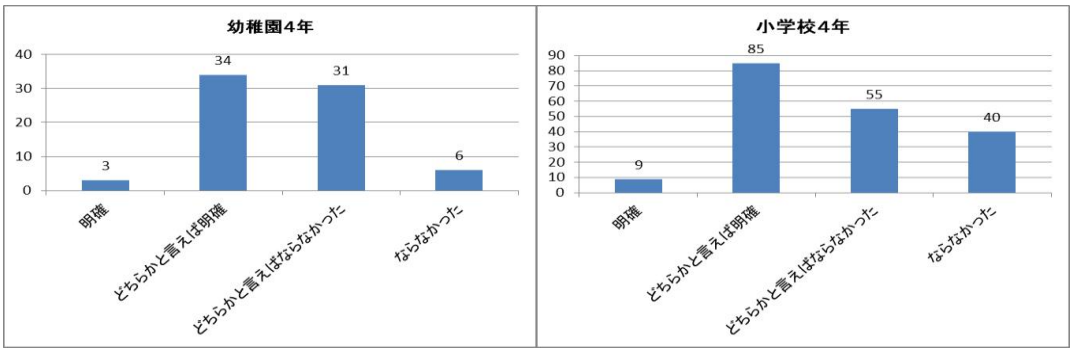


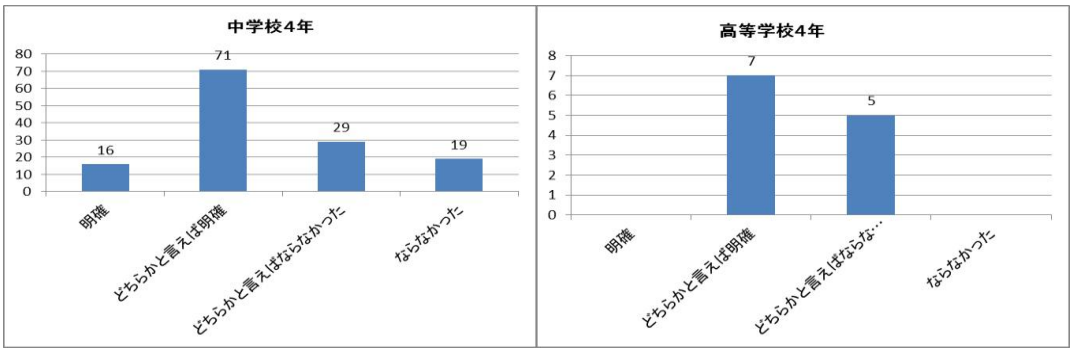
４１９名中、肯定的な回答（「明確になった」「どちらかと言えば明確になった」）は３５５名であった。割合にして約８５％である。多くの学生が、参観実習によって、目指す教師像が明確になったとしている。次のような記述が自由回答より見られた。

- ４年後の自分に何が必要なのかをわかった。(小学校 / 教育学科)
- 実際に現場に行くことで、目標が明確になりました。(小学校 / 芸術教育学科)
- 教師の大変さを目の当たりにし、教師になるまですべきことを改めて考えさせられた。(中学校 / 芸術教育学科)
- 今後に向けて、より日本語力をつけていきたいと思った。教えるときに数学の知識はもちろん、それを伝えるための国語力も必要だと思った。(中学校 / マネジメントサイエンス学科)
- 教育現場を見て様々なことが足りないと思ったので、それらを大学生の間に補っていけるようにしたい。(中学校 / ソフトウェアサイエンス学科)

- 現場に出てみてコミュニケーション能力がとても大切だと感じた。生徒達と話すときに多くの話題、引出を持っていることが重要だと思った。教員採用試験に向けて筆記の対策に加えてコミュニケーション能力や人間性も磨いていきたい。(中学校 / 教育学科)
- 自分の母校以外での初の材料収集になり、母校が落ち着いた学校であった事を知った。生徒のみではなく、教員のモチベーションや技術にも差があることが実際に見てわかったため、理想の教師像とその反対も明確にイメージできた。この良い教師像に近づくために何をすれば良いか考え実行していく。(中学校 / 教育学科)
- ある程度明確になった自分の理想像の実現に向けて、理想と現実の区別をしつつ励んでいきたい。(中学校 / 教育学科)

４年生の回答結果は、次である。





４１０名中、肯定的な回答（「明確になった」「どちらかと言えば明確になった」）は２２５名であった。割合にして約５５％である。４年生の半分以上の学生も、参観実習によって、目指す教師像が明確になったとしている。次のような記述が自由回答より見られた。

- 担任の先生が非常に厳しい視点で見る方だったので、自分はこうでなく、もっとこうしたいなど自分なりの保育観を見つけられた。(幼稚園 / 乳幼児発達学科)

- 現場での子どもの姿を見たことで、講義で学ぶ発達や子どもの姿がより具体的にイメージができるようになりました。それによって、より学びが深まりました。（幼稚園 / 乳幼児発達学科）
- それまでに現場で関わる機会がなかったので、実際の現場へ行くことができたのは嬉しかった。関わることのできる時間が短いため、理想の教師像を明確にするのはむずかしかった。（先生っていいなぁ～くらいの感想だった。）（小学校 / 教育学科）
- 児童との関わり方や、自分に足りない教員の資質などが分かった。（小学校 / 教育学科）
- 初めて学校現場に出る機会だったので、とても緊張していたことを覚えていて、まだまだ教育に関して知識が少なく、とまどったことも覚えている。いろいろな先生方の授業を見ることによって、自分がどのような授業を展開したいか、考えるきっかけとなった気がする。（中学校 / マネジメントサイエンス学科）
- 私が参観した学校は、学生が明るくしっかりとあいさつしてくれる学校でした。しかし、授業内容は、大学で学習したものとはかけ離れており、教員自身が「何を教えるべきか」がはっきりしていないと、授業をして成り立たないことを学ぶ機会になりました。「自分にしか教えられないこと」は何なのかを常に考えながら勉強しました。（中学校 / パフォーミングアーツ学科）

最後に、自由記述の回答のうち、取り上げておきたい意見を記す。

- 実際に子どもと関わる機会を持つことで、将来を考えるきっかけになるのかなと思います。ただ見るだけではなく関わる機会がもっと多かったらよかったなと思います。（幼稚園 / 教育学科 / ４年）
- 一日のみ、なおかつ「参観」という形なので、表面上のことしか経験できず、「教職」の大変さややりがいは掴めない。（中学校 / 教育学科 / ４年）
- 参観実習では授業をしないため、あまり明確にはならなかった。実際に授業を行うことで教師の仕事が明確にイメージできると思う。だから参観より参加できるといいと思った。(小学校 / 教育学科 / ４年)

参観実習のほとんどの時間は、授業を参観している。上の意見のように、ただ参観するだけではなく、それ以上の関わりを持ちたかったとする学生もいる。授業を参観させるにとどめるのか、授業活動に学生を活用するのかは今後の課題となろう。

また、参観実習は、教育現場や引率教員に左右される。次のような意見があった。

- 入ったクラスの先生（男）に歓迎されず、むしろ邪魔者扱いされてしまった。他の保護者ボランティアとはたくさんコミュニケーションをとっていたのに、私は一日中いない者みたいにされてしまった。朝の会などの紹介でも子どもたちが私の方を見てい

ても、保護者の方の紹介だけして、ショックで怖かった。(幼稚園 / 乳幼児発達学科 / 1年)

- 実習校や指導教員によって差があり、大きな学びを得られなかった。(中学校 / 英語教育学科 / 1年)

教育現場や引率教員に左右されないためのひとつの方法として、まずは実習生が参観実習の目的を明確に自覚するのがよいであろう。そのためにも、全体による事前指導で参観実習の目的をはっきり伝えるのがよい。実際、次のような意見があった。

- 参観だけでは何も変わらない。事前にどのようなことを参観するかを、明確にしておくべきだった。(小学校 / 教育学科 / 4年)
- 参観実習では、主に参観する目的を明確にしないと、時間が無駄になってしまう。(小学校 / 教育学科 / 4年)

参観実習をより充実させるためには、実習を2日間にするのもよいかもしれない。実際、次のような意見があった。

- 「現場を知る」という意味では、一日だけの参観のため、授業の流れや子どもたちとのかかわりは把握できなかった。一日だけしか行かないのに実習にはならないと思う。(小学校 / 教育学科 / 4年)
- 一日の中でできることは限られているため、時間を効率良く、計画的に使える様に心掛けることが大切だと感じ、児童と関わる中で知識がないと言葉が出なかったりとかがあったので、一年の頃の自分は知識が少なく上手くできずにいたので、あまり参観実習に良い思い出はありませんでした。(小学校 / 教育学科 / 4年)
- 一日の流れ、クラスの生徒との交流ができました。コミュニケーションのとり方を学べたと思います。一日だったため、外から来たお客さんのような感じになってしまったようにも感じました。(中学校 / リベラルアーツ学科 / 4年)

教育現場によっては、実習生を補助教員のように活用するところもあったようである。参観実習において、学生がどう教育現場で活用されたかを調べてみるのもいいであろう。そうすれば、参観実習における学生の活用例を知ることができる。そういった学生の活用例を教育現場に示していけば、ただ「参観」するだけではない時間とできるであろう。

参観実習の時期の問題もある。実際、次のような意見があった。

- 私たちの頃は参観実習が10月頃だったので、春セメスターを受けてから初めて現場をみるのにちょうどよい時期だったと思う。今は6月頃だと聞いて、どこに注目してみ

ればいいのかなどきちんと理解してから行けているのかな？と話を聞いていて思うこともありました。（小学校 / 教育学科 / ４年）

- 参観実習は一年次に行くべきではないと思った。何となく教員の仕事や授業の流れだけは知れた。（中学校 / 比較文化学科 / ４年）
- 教師という視点で学校内を見て活動を体感することができたが、一方で大学一年生ということもあり、校務分掌など不明なことも多かったのも事実であった。（中学校 / 教育学科）

参観実習の時期を１年次にするのか、それとも２年次や３年次にするのか。１年次だとしても、１０月にするのか、６月にするのか。ただ、教育現場を見せるのであれば、いつでもいいのかもしれない。ただ、ある目的をもって参観実習を位置づけるのであれば、その目的に適切な時期というものがあるであろう。

以上のような課題に対応するには、まず参観実習の目的をさらに明確にする必要がある。参観実習の目的をさらに明確にしていけば、実習をいつやればよいかという問題も解決するであろう。さらには、実習を２日間にした方がよいのか、それともこれまで通り１日間でよいのかという問題も解決するであろう。参観実習の目的がさらに明確になり、教育現場や引率教員にきちんと伝われば、教育現場や引率教員によって実習での学びが大きく左右される度合いも減るであろう。学生にも参観の目的がはっきりと伝わるに違いない。

［参考資料］

[1] 玉川大学「教員・保育士の養成・就職　参観実習」
http://www.tamagawa.jp/university/teacher_education/licensing/observe.html
（閲覧日：２０１７年3月１８日）
[2] ２０１０年度「ＴＡＭＡＧＡＷＡ２０２０ＶＩＳＩＯＮ」、２３頁
[3] 玉川大学教職課程委員会資料２０１２年１０月２６日、８頁
[4] 森山賢一「連載　学習支援の教育方法第３５回　４年間を通した教職課程指導・支援体制の試み」文部科学教育通信　３５２、２０１４年１１月２４日

第３章　教育委員会、校長会と連携した「教育実習指導に関する協議会」報告

玉川大学では、近隣の小学校、中学校、高等学校の協力のもと、教職課程履修学生の教育実習を行っている。一通りの実習が終了した時点で、毎年、各地区の校長会の先生方と本学の教職担当教員とによる「教育実習指導に関する協議会」を開催し、教育現場で迎える学生の実態と、大学における教職指導についての合致点、不足の部分等を探り、次の機会への準備、研鑽の機会としている。その協議会について報告する。

1.相模原市内の学校における「教育実習指導に関する協議会」概要

【日　時】平成 28 年 11 月 29 日（火）15：00～16：30

【場　所】玉川大学　経塚オフィス棟 151 模擬授業室兼研修室

【出席者】相模原市立小学校　校長会　１名

相模原市立中学校　校長会　２名

農学部生物環境システム学科	教職担当	山岡　好夫
教育学部教育学科	教職担当	鈴木　淳也
芸術学部芸術教育学科	学生主任代理	中島　千絵
教師教育リサーチセンター	客員教授	鹿俣　克美
教師教育リサーチセンター	客員教授	木下　英雄
教師教育リサーチセンター	事務次長	高橋　正彦
教師教育リサーチセンター	課長	平山　守
教師教育リサーチセンター	課長	村野　高道
教師教育リサーチセンター	実習担当	小林　真澄

【司　会】高橋　正彦　教師教育リサーチセンター事務次長

(1) 玉川大学より報告

1)平成 28 年度 相模原市立小・中学校における教育実習実施他報告

小学校 16 名（うち通信教育課程 5 名）、中学 7 名（うち通信教育課程 0 名）。

※1 年次に実施している参観実習から学校ボランティア、教育実習を経て教員採用試験に合格した学生あり。

※平成 29 年度教員採用試験において、平成 28 年度相模原市立小・中学校で教育実習を行なった学生のうち、通学課程の合格者 5 名。

2)平成 29 年度　相模原市立小・中学校における教育実習希望者報告

平成 29 年度　相模原市立小・中学校における教育実習希望者が 13 名。

(2) 教育実習指導について教育現場から大学への要望(アンケート調査結果他)

平成 28 年度玉川大学教育実習に関するアンケートを、教育現場の先生方を対象に実施

しており、その結果を以下にまとめた。

[アンケート結果より]

・実習校では採用試験の結果について心配をしているので、教員採用試験の結果報告連絡について指導・確認をして欲しい。
・実習生の教科書・指導書について大学側で用意してもらえないだろうか。
・先輩等から実習に対しての心構え等を学ぶ講義を充実させてほしい。
・実習記録の記入の仕方―最後の振り返りは４週間の体験、学びをまとめていくものであることを周知、指導する。（日々のことを書くものではない）
・基本的なマナー（あいさつ、服装、マスク着用時のマナー等）や先生方に対する受け応えの仕方等を身につけさせてほしい。
・指導やアドバイスを受けた際、ダメ出しをされたと受け取るのではなく、いいことを教えてもらったと考えられるようになってほしい。
・単位取得の為に本人が実習中に行わなければならない必須事項について本人がしっかり把握しておいてほしいです。
・大きな声であいさつができること。自分と直接的な関わりがない職員にもあいさつができてほしい。指導案作りや日誌のまとめ方もありますが、部活動などに積極的に参加してほしいです。
・本当に教員になりたいのか意欲・意識を高めてから実習に来てほしい。

[意見交流会]　上記を踏まえて、協議会として意見交流会にて以下のような発言があった。

◆校長会の先生方より

・玉川大学だけではないが、大学生の社会人としてのマナーは気になっていることで、教員養成の中ではポイントとなることである。
・相模原市では教員の若返りの時期で、1校目の教員（教員職5年目程度）が指導教員となっている。
・部活動については、中学校教員は避けて通れないことで、部活動の顧問は必ずあると指導して欲しい。
・日誌に書くことが多く、日誌を書くのに時間を取られ過ぎている。
・教育実習の担当は毎年変わる。
・参観実習では10名を受入れた。学校現場や学校の実態を知るという時間が大切。やる気を持って取り組んで欲しい。
・相模原市では母校実習が原則である。
・卒業生のお兄さんお姉さんが教育実習に来てくれることで子どもたちに喜ばれる。
・ＳＮＳには注意をして欲しい。若い時のつぶやきなどで、教員を辞めた例がある。
・相模原市では若い教員が80%を占める。

◆玉川大学教職担当教員より

・教育実習の訪問指導に行った際、学校現場でかなり気を使っていただいた。どのような教育実習を行なっているかを見るだけで良いので、あまり気を使わないでいただければと思う。

・挨拶に関しては指導の中で重点的に行っている。

・教育実習事前指導の一コマを相模原市教育委員会の指導主事に依頼している。

・ＳＮＳについての指導は徹底して行っているが、出来ていない学生に対する対応を考えていく。

・部活動の指導の注意点も指導していく。

・他県の学生が、相模原市で参観実習を行ない、ボランティアを通して教育実習を受入れていただいているので、今後もよろしくお願いしたい。

・ＳＮＳを利用する際は、自覚を持って利用するように指導する。

・教育実習であたふたしていた学生も、実習から戻ってくると成長が見られ、しっかり指導していただいているのが伺える。

・現場でしっかり成長させていただける職業だと思う。

・マスクをずっとしている学生の対応を考える。

・今年度は相模原市の教育実習で 10 人を訪問指導して、全てにおいて手厚い指導をしていただいていた。

・教育実習から戻ってくると顔つきが変わる。

・教育実習終了後、1 ヶ月で採用試験を迎えるが、相模原市では実習受入れ校でも採用試験対策の支援を行っている。

・通信教育の学生を中心に指導している。

・4～5 倍の倍率のため、合格するのは難しいが、2,3 年臨任を経験して新採用になっている。8 年かけて新採用になった学生もいる。

［その他の事項］

◆玉川大学より

・大学でも今年度の不合格者に対して、臨任登録を行うように指導している。

・宿泊を伴う学校ボランティアについて、春学期・秋学期それぞれ 1 回ではあるが参加できるようになっている旨、説明があった。

◆校長会より

「学生のけが等は自己責任になるのか」との質問に対し

◆玉川大学より

「学生たちには保険が掛けられており、けがは勿論、相手にけがをさせてしまった場合や、モノを壊してしまった場合にも適用される」と回答。

◆校長会より

・相模原市では小学校では 5 年生、中学校では 1 年生で野外教育があるので、これらの学年で教育実習を行なう場合は参加が可能であるなら、教員になってからも役に立つと思う、とのご意見を頂いた。

◆玉川大学より

・教育実習日誌で記入が大変であるなら、切り貼り等の対応も可能である。 学生たちの財産になるので、ご理解いただきたい、との依頼をした。

・来年度は、小学校で 2 校（6 月 27 日）、中学校で 5 校（11 月 8 日、9 日）に参加実習の受け入れを依頼。

以上。活発な意見交換等がなされ終了となった。

2.川崎市内の学校における「教育実習指導に関する協議会」概要

【日　時】平成 28 年 11 月 30 日（水）10：00～11：33

【場　所】ホテル KSP　708 会議室

【出席者】川崎市立小学校　校長会長　　３名

川崎市立中学校　校長会長　　２名

教師教育リサーチセンター	センター長	森山　賢一
工学部ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｴﾝｽ学科	教職担当	豊田　昌史
教育学部教育学科	教職担当	山田　信幸
芸術学部芸術教育学科	教授	野本　由紀夫
ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科	教職担当	松本　由美
通信教育部	教職担当	守屋　誠司
教師教育リサーチセンター	客員教授	見富　信義
教師教育リサーチセンター	客員教授	田島　操
教師教育リサーチセンター	事務次長	高橋　正彦
教師教育リサーチセンター	課長	平山　守
教師教育リサーチセンター	課長	村野　高道
教師教育リサーチセンター	実習担当	小林　真澄

【司　会】高橋　正彦　教師教育リサーチセンター事務次長

(1)はじめに

川崎市と本学は連携をしっかりと取り、見富先生、田島先生を中心に小・中学校の教育実習を含め、教員養成を行っているとの説明があった。

更に、単位の実質化、質保証を図るために、全ての学部・学科の教職課程で卒業単位に教職科目を含めていること、参観実習、学校ボランティアを始め 4 年間を通した教職支援を行っていること、大学自体が責任を持って教員養成を行うことで、6 年前に教師教育リ

サーチセンターが設置されたことの説明があった。

最後に、今回の協議会の成果を反映させ、教員養成の充実に努めたいとの説明があった。

(2)教育実習指導について教育現場から大学への要望(アンケート調査結果他))

［アンケート結果より］

・玉川大学では指導が行き届いている。自然教室（宿泊を伴うボランティア）の件では、他大学ではやっていない対応を一番にやっていただき、ありがたい。

・ボランティアに来ていただけるのはありがたい。

・アンケートのなかにもあったが、実習生を受入れたことで職員も成長できたということに共感を持った。

・自分の考えを持って行動できるよう、他の人と関わりを持って対応できるように指導を行ってほしい。

・玉川大学では教育実習に出す前にしっかりと指導しているということが分かった。教育実習の 3~4 週間では学びの時間としては短いので、やはり、ボランティアを通して長期で学んで欲しい。

・宿泊を伴う実習（ボランティア）は学生の力になる貴重な時間を過ごせる。

・玉川大学卒の臨採者が、今年度合格した。学校現場はストレスが溜まる職場であるが、働きやすい職場環境にしていきたい。

・進路指導の担当者は、社会の変化が激しいので大変である。

・心身ともに健康でなければ、教員は務まらない。

・教員になっても学び続けなければならない（深い学び)。

・教員には、柔軟性、ＩＣＴの知識、社会的常識、コミュニケーション能力が必要。

・女子生徒との関わり方が難しく、タッチされただけでもいやがられる。

・開かれた心をもつ人材を求める。地域、多様な人々と交流できる人材を求める。

［意見交流会］

◆玉川大学教職担当教員より

・今年度は川崎市の数学で 2 名が合格となった。何かのスキルを身に付けさせたいと思っているが、現在、模索している現状である。

・学校ボランティアでは学科で一体化しており、ボランティアに行っている学生が急遽いけなくなった場合に、他の学生がカバーしてボランティアに行っている。

・今年度は 10 名の学生を受入れていただき、来年度は教職大学院生も含め 11 名がお世話になる。今の学生は、言葉、用語が出来ておらず、求められるレベルまで能力が追い付いていない。また、日常スマホで対応しているため、ＰＣの知識、操作技術はどうか疑問。 真面目な成績の良い学生は、コミュニケーションは苦手。コミュニケーション力のある学生は、逆に成績が思わしくない。

・芸術教育学科は開設 3 年目で、小学校 2 種免許も取得するように指導している。秋の実習なので、行事が多いなか受け入れていただいているのは申し訳ないと思っている。音楽専科大学ではないため、入試では実技試験を実施しておらず、ピアノが弾けない学生は、入学後に練習することになる。
・コミュニケーション力や規律は養成できると思う。
・ＩＣＴ教育については指導している。
・現在、リベラルアーツ学部では英語と国語の免許が取得できる。
・今の学生は、挨拶が意外と苦手なものが多い。
・今後も学生の指導をしていくので、来年度もよろしくお願いしたい。
・通信制の学生は、意欲を持って入ってくる。
・覚悟をもって教育実習を受けるように指導している。
・国語と算数の指導法を実習前に履修が終わるように制度を変更した。
・川崎市では 2 月頃まで実習を受けていただいている。
・通信の教育実習は自己開拓で行っている。
・玉川大学は教員採用試験の合格率が高く、主にボランティア先に配属されている。
・教員採用試験は 7 月の第二日曜に実施されており、教育実習後から教員採用試験まで 1 ヶ月くらいは欲しいことから、実習開始は 5 月の連休明けにお願いしたい。また、運動会も経験させられれば良い。

［その他の事項］

◆校長会より

・玉川の先生の話から学生の名前が次々と出てくるのは素晴らしい。学生の名前が出てくる大学は信頼できる。
・ボランティアが一体化しているのが良い。

以上。協議会のまとめとして、学生の教員養成支援と共に、卒業生のフォロー及び現職教員の支援を行うことについての説明をして終了となった。

3.横浜市内の学校における「教育実習指導に関する協議会」概要

【日　時】平成 28 年 12 月 5 日（月）10：00～11：30
【場　所】ホテル横浜ガーデン　5 階ライラック
【出席者】横浜市立小学校　校長会　２名
横浜市立中学校　校長会　２名

教師教育リサーチセンター	センター長	森山　賢一
教育学部教育学科	教職担当	山口　圭介
芸術学部芸術教育学科	教職担当	髙橋　愛
ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科	教職担当	中村　聡

教師教育リサーチセンター　客員教授　　綿貫　健治
教師教育リサーチセンター　客員教授　　丸　雄治
教師教育リサーチセンター　事務次長　　高橋　正彦
教師教育リサーチセンター　課長　　平山　守
教師教育リサーチセンター　実習担当　　小林　真澄

【司　会】高橋　正彦　教師教育リサーチセンター事務次長

(1)はじめに

横浜市は本学学生の教育実習等の受け入れや協議会等、先導的に行っていることの説明。加えて、本学の教職課程の特色である①単位の実質化に伴い半期 16 単位のキャップ制を設け、教育学部以外でも教育実習の単位を含め、教員免許状の取得に必要な単位を卒業単位にしていること、②1 年次から 4 年間を通して教員養成を行っていること、③通信教育部を含め、全学体制の教職支援を行い、教師教育リサーチセンターでの一元化を図っていることについて説明があった。

昨年度、本学の学生は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の公立学校（園）での教育実習に、通学課程で 500 名が実習をし、350 名が教壇に立っている(通信教育課程では 118 名:回答があった者のみ)。横浜市には、小学校で 29 名、中学校で 19 名が実習を行い、そのうち採用試験には 30 名強が受験、名簿登載者は 15 名弱とのことであった。

(2)教育実習指導について教育現場から大学への要望(アンケート調査結果他)

［アンケート結果より］

・校長会では 2 年前から実習担当は置いていない。
・学校ボランティアに来ていた玉川の学生は意欲的に取り組んでいた。
・宿泊を伴うボランティアでは、旅館の玄関を掃除していた。
・初任者の様子を見ていて教員に必要と思うことは、“子どもたちに向き合える力”、“叱るのも注意するのもエネルギーがいるので逃げ出さず対応できる力”、“我慢力”、“気配り”、“マナーを身に付けている”等で、それぞれの力を身に付けて欲しい。
・来年度に実習受け入れする学生は 2 年次からボランティアをしており、現在も継続中。
・参観実習の事後指導が良いのか、学生たちの感想が始める前と比べてしっかりとしている。
・学生サークルの学生と話す機会があったが、対応等が立派で、学生サークルの存在が大きいのではないかと思う。大学の学修だけでなく、サークル活動などでの学びも大きい。
・学内説明会等で玉川大学の学生と関わっていたが、良い印象を持っている。
・コミュニケーション力は大学の教育ということではなく、個人の資質が大きい。
・自分の実態に気付き、課題を見つけ、意欲的に解決できるようにして欲しい。
・アスペルガー等、特別支援を要する子どもたちの特性を知ったうえで実習に臨んで欲し

い。
・企業就職か教員か、進路に迷っている学生の対応をどうしたら良いか、このような学生へのアプローチをどうしたら良いかが課題となっている。
・教育実習において受け入れていないが、一部の校長に聞いてみたら、玉川大学の実習生の評価が高かった。宿泊を伴う引率ボランティアも評価されていた。
・実習日誌の電子化を検討して欲しい。

［意見交流会］
◆玉川大学教職担当教員より
・教育学部の課題としては、単位の実質化の中でどのように教員養成を行っていくか、総合的人間力を育てるためにはどうしたら良いか。
・悩みを見つけ、課題を解決していく。
・2 年次ではマナー講座、聞き方、話し方など、テーマを設けながら各講座を行なっている。
・ＳＮＳの対応としては、1 年次の時から設けている。
・特別支援教育については、選択必修から必修化に変更した。
・義務教育学校関連で、複数免許状を取得できるようなカリキュラムとしている。
・実習期間中は授業を入れず、4 月・7 月集中開講となっている。
・芸術教育学科では、音楽と美術の免許が取れる。
・コミュニケーションが取れない、報告書が書けないなど、コミュニケーション力が最大の課題
・1 年次の終わりに、消極的な学生に対してコミュニケーション力やマナーの指導を行っている。
・継続判定では、デッサン力やピアノが弾けるかを確認している。
・教員以外の就職先としては、学芸員、アートスクール、音楽教室などが挙げられる。
・個人情報の取扱いは、著作権などと併せて教育実習事前指導で行っている。
・教員の仕事は教科だけでなく、様々な業務を行っていることを伝えている。
・リベラルアーツ学科では、小学校 1 名、中学校 1 名がお世話になった。
・学校ボランティアには参加するように指導している。
・教育実習では厳しく指導していただいており、大学としては非常にありがたい。
・学生は、介護等体験で教員としての向き不向きに気づくようである。
・リベラルアーツ学科の学生は、コミュニケーション力には長けているが、筆記の一次試験で不合格になってしまっている。
・卒業生の中には４～５年掛けて教員になる者もいる。
・通信教育の学生は対面での指導が通学に比べて少ない。
・対面での指導の際は、教員としての心構え、準備、学習指導案の書き方などを行って

いる。

・通信教育の学生は、19～50 歳と年齢層に幅がある。
・特別支援を要する生徒に対しての指導法として、声掛けの方法なども指導している。
・特別支援の必修化は、是非、行ってほしい。
・特別支援教育について理解、対応ができないと、学級崩壊につながる。クラスに特別支援を要する児童が 3 人いたら、ベテラン教師でも学級が崩壊してしまう。
・若い先生が情熱をもって教員になっても、特別支援を要する児童についての知識がないと辞めてしまう。
・給料よりも、教えることの喜びを理解して教員になってほしい。また、伝えてほしい。
・個人情報、ＳＮＳについては、今後とも引き続き指導していく。
・本日出た意見をしっかりと受け止め、学生指導をしていく。
・宿泊を伴うボランティアでは半期に 1 回ではあるが、宿泊を伴うボランティアの欠席届を提出することによって、宿泊を伴うボランティアが可能となる。校長会の席でも話していただけるとありがたい。
・参考までに、学生たちは宿泊を伴うボランティアでも保険を掛けているので、校外学習の経験の機会を与えてほしい。

以上。活発な意見交流のうちに終了した。

4.町田市内の学校における「教育実習指導に関する協議会」概要

【日　時】平成 28 年 12 月 5 日（月）17：35～19：00
【場　所】玉川大学　経塚オフィス棟 151 模擬授業室兼研修室
【出席者】町田市立小学校　校長会　３名
町田市立中学校　校長会　２名

教師教育リサーチセンター	センター長	森山　賢一
文学部人間学科	教職担当	林　大悟
農学部生命化学科	教職担当	八並　一寿
工学部ｿﾌﾄｳｪｱｻｲｴﾝｽ学科	教職担当	塩澤　秀和
教育学部乳幼児発達学科	教務主任	宮﨑　豊
教師教育リサーチセンター	客員教授	伊東　冨士雄
教師教育リサーチセンター	客員教授	小澤　良一
教師教育リサーチセンター	事務次長	高橋　正彦
教師教育リサーチセンター	課長	平山　守
教師教育リサーチセンター	課長	村野　高道
教師教育リサーチセンター	実習担当	小林　真澄

【司　会】高橋　正彦　教師教育リサーチセンター事務次長

(1)はじめに

町田市の各学校には実習・参観実習・インターンシップ・学校ボランティアで受け入れていただいている件で、お礼の挨拶があった。続いて、本学では①質の向上から半期上限16単位のキャップ制を取っており、教育学部以外でも教育実習単位を含め、免許状取得に必要な単位を卒業単位に含めていること、②授業の空き時間を利用してボランティアに行くように指導していること、③4年間を通して、キャリアプランを明確にした教職課程の支援体制を取っていること、④全学体制での教職支援を行うため、教職に関する窓口を全学組織として教師教育リサーチセンターに一元化し、現職教員の研修も含めて支援を行っていることを説明した。また、教師教育リサーチセンターに隣接する模擬授業室などは校長会等の研修でも利用が可能なこと、さらに、今後も学校現場の先生方との連携の基で教員養成を行っていきたいため、本協議会でのご意見を今後の指導、運営に活かしていきたい旨、挨拶があった。

引き続き、平成 28 年度町田市内の小学校・中学校での教育実習実施報告が次の通りにあった。【小学校（通学10名、通信4名、W免3名）、　中学校4名】

また、東京都内での教育実習生は通学課程で約100名、通信教育課程で50名。採用試験は通学課程では90名強が受験している。昨年度のデータではあるが、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の公立学校（園）での教育実習に、通学課程で500名が実習をし、350名が教壇に立っている(通信教育課程では118名:回答があった者のみ)。今後はもう少し合格率を上げていきたいとの補足説明があった。

(2)教育実習指導について教育現場から大学への要望(アンケート調査結果他)

［アンケート結果より］

・指導案の作成について、もう少し大学の授業内で練習する機会が多いと良いと思う。
・今回はできていましたが、社会人としてのマナー挨拶などはしっかり教えておいて欲しいと思う。
・しっかりと自分の考えを持ち、教材研究や指導案作りに臨む姿勢は頼もしいものがありました。一方で指導教官や他の教員のアドバイスや指導を謙虚に受けとめる姿勢も持っていて欲しいと思います。
・今回の実習生は教職に向けて熱意をもって取り組んでいました。実習生として学校に来る学生には、是非教員を目指し子どもたちのために自分の力を注げる人であってほしいと思っています。
・教えてもらうという態度が大切です。こちらもできるかぎり努力していきたいです。
・町田市内の小中学校と連携し、充分にボランティアで活動のうえ、その延長線上で教育実習を行う体制をとって学生を育てられるようなシステム構築が望まれる。
・「しつけ」をしっかりできている学生を望む。
・実習終了後、卒業するまでに現場での試練に耐えうる準備をしてほしい。

・実習生の研究授業を見て、いくつも重なっていたので、すぐお帰りになってしまうのが残念です。その後学生に指導や本校の指導教員とも協議会がもてればよいと思った。
・身なり(頭髪・服装)についてさらに丁寧にご指導いただけると幸いです。今回受け入れた学生は大変まじめでよい学生さんでしたが頭髪が気になり第一印象は良くなかった。
・実習日誌への指導教官(教諭)の記入欄がもう少し狭くならないかという声が聞かれます。担当教員の負担の軽減をご配慮いただけると助かります。
・更なる実習生の意欲、熱意の向上。「免許取得のための実習」では担当教員も気が乗らない。
・教育実習中、実習生には時間がないのも理解できますが、授業の指導案や実習日誌の提出が遅い時間になってしまうことがあったので、そのあたりを貴校でも指導していただけると助かります。

◆校長会より

・W免許プログラム学生を受入れた。熱心で誠実に子どもと意欲的にかかわっていた。
・中学校での実習とギャップがあったのではないか。
・産休代替をしている玉川大学の卒業生は、今年度合格をした。
・町田市の小・中学校での教育実習は、地方の大学と近隣の小・中学校の関係と同じで、通信教育の学生を受け入れたりして、また、採用試験で不合格になった学生が臨採で来てその後に合格しているという関係は重要だと思う。
・学校支援センターでは、担任の指導についていけない子どもたちの対応をするボランティアを募集して対応している。
・長いスパンでの教員養成を考えていければ良い。
・ボランティアができる曜日があれば実践的な学びとなるので、全学的に広めて欲しい。
・今の大学生の中には、社会性に適応できない学生がおり、コミュニケーションなどに違和感を感じる。
・玉川大学の学生は真面目で優秀な学生が多いがおとなしいので、もっと個性を出しても良いのではないか。
・玉大卒の新規採用教員がおり、昨年は期限付きであったが、今年度合格した。
・ボランティアは3名が来たが、まじめで一生懸命頑張っていた。
・1年次の参観実習で受入れ体制はできている。今年度は日程的に期末テストと重なり受入れが出来なかった。次年度以降、期末テストを外した日程であれば、受入れは可能。
・玉川の学生で前期にボランティアに来ていた学生はいたが、後期は来なくなった。継続しないのが課題。
・単位化してインターンシップに来させて欲しい。
・以前に比べ、実習生の態度の悪さは無くなった。
・アンケートの回答で実習日誌の記入欄のことが書かれていたが、気にしなくても良いと思う。

・教科のスペシャリストなので、しっかりと専門教科を通して教科の楽しさを教えられるようにして欲しい。また、楽しさを教えたいと思えるようになって欲しい。
・学校現場では組織で生活指導をしていかなければならないので、自分ひとりで指導するという考えは古い。組織を理解してきて欲しい。
・教育実習は正規ルートで申し込んだ学生を優先しつつ、可能な範囲で玉大生を受け入れている。中学校では秋の実習は受け入れづらい。
・玉川の学生はまじめという印象があり、良い学生が多くなっている。
・一般論として、指導担当も遅くなってしまうので、実習中は遅くならないようにして欲しい。(教員は家に仕事を持ち帰れない)。
・教育実習が終わった後の礼状はあるが、教員採用試験結果の報告がない。
・不合格者の卒業後の進路として、臨採教員がある。

◆玉川大学教職担当教員より

・教員採用試験結果の報告は学部の教員にもなく、特に落ちた学生からの報告はない。
・ボランティアにおいて、実験のサポートをやらせてもらっている。
・理科の楽しさを伝えたいと思っている学生が多い。
・参観実習の引率をしたが、先生だけでは教えきれないと感じたので、学生たちには勧めたい。
・インターンシップ、ボランティア等、木曜日の時間を空けて行けるようにしている。
・ボランティア証明書をいただいている。
・現場で学ぶことを大切にしている。
・教師としてのモラル教育を充実するようにしている。
・アクティブラーニングを取り入れるようにしている。
・学生の資質は授業以外でも身に付けさせる場を探すのが良い。
・コミュニケーション講座も開講している。
・通信教育の学生を担当している。通信教育の教育実習事前指導は 1 日 6 コマしかないなかで指導案の書き方も含めて指導しているので、通学課程の 15 コマとは異なる。
・スクーリングの授業のなかでも、色々と指導している。
・10 年ほど町田市教育委員会にお世話になった。今の町田は組織体制が良く、各学校で校務分掌を学ばせていただいている。
・採用試験結果については、校長先生に合否に関わらず必ず報告するように指導している。
・実習中に何かあればいつでも大学に連絡をいただきたい。

以上、活発な意見交流が行われた。最後に、森山教師教育リサーチセンター長より「今回頂いた意見は、学内の教職課程委員会等で改善を目指して、取り組んでいきたい」と挨拶により、閉会となった。